



インストール・構成ガイド

WinZip Enterprise 31
(unrestricted 版)



目次

はじめに.....	5
参考リソース	5
インストールの計画	6
WinZip MSI ファイルのカスタマイズ.....	6
WinZip Enterprise の MSI ファイルが他の WinZip 版と異なる点	6
WinZip の機能の選択.....	6
追加の機能	12
カスタマイズの構成	13
INSTALLCMD プロパティ	13
言語オプション	13
パスワードポリシー関連のプロパティ	14
Contacts 用の統合アドレス帳の構成.....	14
クリーナーツールの構成.....	17
自動更新機能の構成.....	19
WIP (Windows Information Protection) 環境での WinZip の使用	21
WIP/EDP はどのような課題を解決するのか.....	21
解決策: 業務ファイルと個人ファイルの区別	21
WinZip を WIP 環境で使用する際の重要事項	21
Windows 添付ファイルマネージャー環境での WinZip の使用	22
組織全体でのパスワード管理.....	23
ユーザー証明書のアクセス方法の選択肢	23
管理者側のセットアップ	23
証明書とレジストリの設定	24
パスワードの取得と組織証明書の更新.....	24
管理者システムへの WinZip Enterprise スナップインのインストール	24
パスワードの取得	25
暗号化ファイル用の組織証明書の更新.....	25

WinZip Express	26
機能のインストール	26
アドオンのインストール	26
WinZip Express の機能概要	26
File Name (ファイル名)	27
Compression Type (圧縮形式)	27
Encryption (暗号化)	27
Conversions (変換)	27
Share/Save Options (共有・保存オプション)	28
Schedule for Deletion (削除のスケジュール)	28
Automation options (自動化オプション)	28
WinZip Snap and Share	29
WinZip Scan and Share	30
WinZip Express for Office	31
WinZip アプレット: WinZip PDF Express、WinZip Image Manager、WinZip Secure Backup、WinZip Duplicate File Finder、WinZip Safe Share	32
変換機能・クラウドサービス・ソーシャルメディア	34
変換機能 (Conversions)	34
Encryption (暗号化)	34
Reduce Photos (写真の縮小)	34
Remove Personal Data (個人データの削除)	35
Convert Photos (画像形式の変換)	35
Watermark (透かし)	36
Convert from PDF (PDF からの変換)	37
Convert to PDF (PDF への変換)	37
Combine Files into a PDF (複数ファイルを 1 つの PDF に結合)	38
Sign PDF Files (PDF ファイルへの署名)	39
クラウドサービス (Cloud Services)	40
クラウド構成に関する注意事項	41
ソーシャルメディア (Social Media)	41
WinZip のレジストリ設定: ポリシーとその他の設定	43

レジストリ設定を作成しないプロパティ	43
既定のポリシー	43
パスワードポリシー	45
その他の設定	46
WinZip Command Line Support Add-On 6.0	47
WinZip Command Line Support Add-On 6.0 のインストール	47
WinZip Courier	48
全般的な考慮事項	48
Zip 圧縮オプション	48
添付ファイルのオプション	48
Zip Attachments（添付ファイルの Zip 圧縮）	49
Single Attachments（単一の添付ファイル）	50
パスワードポリシー	50
クラウドサービス（WinZip Courier）	50
クラウドオプション	51
Email from Cloud（クラウドからのメール送信）	52
変換機能（WinZip Courier）	53
Reduce images options（画像の縮小オプション）	53
Convert photo options（画像形式の変換オプション）	53
Remove info options（情報の削除オプション）	54
Convert to PDF options（PDF への変換オプション）	55
Watermark options（透かしのオプション）	55
Sign PDF options（PDF 署名のオプション）	56
FIPS 140-3 準拠 – 構成上の考慮事項	57
FIPS に関するヒントと考慮事項	57
利用シナリオ例	58
シナリオ 1 – SharePoint 環境	58
概要	58
インストールの準備	58
インストール	59
シナリオ 2 – Amazon S3 環境	60

概要	60
インストールの準備	60
インストール	61
シナリオ 3 – FIPS 140-3 準拠の準備	61
概要	61
インストールの準備	61
インストール	62
シナリオ 4 – 複数クラウドアクセス環境	62
概要	62
インストールの準備	62
インストール	63
シナリオ 5 – 「フル機能」構成（一部ユーザーはソーシャルメディアを除外）	64
概要	64
インストールの準備	64
インストール	65
会社情報・法的事項	66

はじめに

本インストール・構成ガイドは、WinZip® 31 Enterprise の計画・構成・導入を支援するための資料です。

注: WinZip Enterprise には 2 つのエディションがあります。WinZip Enterprise (unrestricted、機能制限なし) と、WinZip Enterprise Government and Regulated edition (restricted、政府機関・規制業種向けの機能制限版) です。本ガイドで説明する既定値は、ほとんどの機能が有効になっている WinZip Enterprise (unrestricted) に適用されます。

WinZip は FIPS 140-3 に準拠し、WIP (Windows Information Protection) に対応しています。本ガイドの後半では、いくつかの Enterprise 環境の例を挙げて具体的な構成を示し、お客様の組織のプライバシー・セキュリティポリシーにとって何が最適かを判断する材料を提供します。

参考リソース

リソース	説明
WinZip Web サイト http://www.winzip.com/	WinZip Computing および同社の受賞歴のある製品に関する情報
WinZip ナレッジベース http://kb.winzip.com/kb/	WinZip の機能や使い方などに関する、索引付き・検索可能な記事
WinZip サポート https://www.winzip.com/en/support/	Contact Support (サポート窓口) ではチケットを送信して技術サポートを受けられます。Learning Center ではよくある質問への回答やチュートリアルを参照できます。
Microsoft Orca.exe http://msdn.microsoft.com/en-us/library/aa370557.aspx	MSI ファイル編集ツールの使い方とダウンロードに関する情報
Microsoft サポート – グループポリシー http://support.microsoft.com/kb/816102	グループポリシーを使用したアプリケーション導入に関する Microsoft の記事
MS System Center Configuration Manager http://technet.microsoft.com/library/gg682129.aspx	SCCM の利用に関する技術情報 (アプリケーションの配布と更新を含む)

リソース	説明
Microsoft Technet – FIPS 140 Validation https://learn.microsoft.com/en-us/windows/security/security-foundations/certification/fips-140-validation	Microsoft の FIPS 140 準拠と検証に関する情報
Microsoft Technet – Create a WIP policy https://technet.microsoft.com/itpro/windows/keep-secure/overview-create-wip-policy	Windows Information Protection (WIP) を使用して企業データ保護ポリシーを展開する方法に関する情報

インストールの計画

WinZip MSI ファイルのカスタマイズ

WinZip Enterprise の MSI ファイルが他の WinZip 版と異なる点

WinZip Enterprise の MSI では、不要な機能を無効化できます。WinZip® Express for SharePoint アドオンについては、本ガイドの後半で説明します。

WinZip の機能の選択

以下は、WinZip の動作を変更するために構成できる、MSI ファイルの Property テーブル（プロパティテーブル）の項目に関する説明です。機能を選定する際は、本ガイドの「変換機能・クラウドサービス・ソーシャルメディア」および「利用シナリオ例」の各セクションも参考になります。

プロパティ	説明
ADDDESKTOPICON	既定=1、デスクトップに WinZip のショートカットを作成。off=0。この設定は WinZip 本体とアプレットの両方に適用されます。
ADDFILEASSOCIATION	既定=2、サポートされるすべてのファイル形式に対応するアプレット（Image または PDF）に関連付けます。0=関連付けなし。1=サポートされるすべての画像ファイルの「Open With（プログラムから開く）」メニューに WinZip Image Manager を追加します。
ADDMENUGROUP	既定=1、[スタート] → [すべてのプログラム] に WinZip グループを表示。 off=0
ADMINSENDITEM	WinZip Courier 用オプション。既定=0、通常の既定動作（添付の Zip 圧縮は有効）で管理者設定なし。1=添付の Zip 圧縮を有効にし、ユーザーが既定を変更可能。2=添付の Zip 圧縮を無効にし、ユーザーが既定を変更可能。3=添付の Zip 圧縮を有効にし、ユーザーは変更不可。4=添付の Zip 圧縮を無効にし、ユーザーは変更不可
ADDSTARTMENU	既定=1、[スタート] メニューの先頭に WinZip のショートカットを配置。 off=0。この設定は WinZip 本体とアプレットの両方に適用されます。
ALWAYSENCRYPT	既定=DEFAULT、無効（または FALSE）。TRUE で暗号化の使用を強制します。

プロパティ	説明
AUTOOPENREADONLY	既定=1、メールの添付ファイルとして受信した場合など、Temp フォルダから開いた Zip ファイルの内容は読み取り専用になります。off=0
CONTACTSOURCE(1-4)	既定=NONE。WinZip メーラーで使用する連絡先を事前設定しません。最大 4 つの異なるソースを定義できます。連絡先を利用可能にするには、DISABLERECIPIENTSERVICES プロパティによって少なくとも 1 つの連絡先ソースを利用可能にする必要があります。「Contacts 用の統合アドレス帳の構成」を参照してください。
DEFAULTLANGID	既定=1、インストール時に OS の言語を WinZip の言語に設定します。0=既定言語なし。条件が満たされている場合、WinZip の言語は現在の OS の言語に追従します（ALLLANGS=1、AUTOLANG=0 であること）。ロケール ID を指定して言語を指定することもできます。「言語オプション」を参照してください。
DEFCOMPICK	既定=Legacy、.zip ファイルを作成します。Best=.zipx ファイルを作成します。
DISABLEBACKUPFOLDERMENU	既定=0、WinZip の設定の [Explorer] タブに「Backup this folder」メニューのチェックボックスを表示します。1=非表示
DISABLECLOUDSERVICES	既定=NONE。ALL - すべてのクラウドサービスを無効化します。その他の選択肢は NONE、ALIBABACLOUD、AMAZONS3、AZUREBLOB、BOX、CLOUDME、DROPBOX、FTP、GOOGLECLOUD、GOOGLEDRIVE、IBMCLOUD、IONOS、MEDIAFIRE、OFFICE365、ONEDRIVE、OPENSTACK、OVH、RACKSPACE、S3COMPATIBLE、SHAREPOINT、SUGARSYNC、TEAMSSHAREPOINT、WASABI、WebDAV、ZIPSHARE です。
DISABLECONVERSIONS	既定=NONE。ALL - すべての変換機能は無効化します。その他の選択肢は NONE、IMAGERESIZE、CONVPHOTOS、REMOVEPEPERSDATA、DOCTOPPDF、PDFTODOC、WATERMARK、ENLARGEDUCEIMAGE（File Management ツールのみ）、COMBINEPDFFILES、SIGNPDFFILES です。
DISABLEDIPUS	既定=2。スタブとアプレットの両方の exe をインストールします（ユーザーによるダウンロードは不要。アプレットは自動更新されません）。0=スタブ exe のみをインストール（ユーザーがダウンロードする必要があります）。1=スタブとアプレットの両方の exe をインストール（ユーザーによるダウンロードは不要。アプレットは自動更新されます）。

プロパティ	説明
DISABLEFILEEXPIRATION	既定=0。Schedule for Deletion（ファイルの有効期限）オプションを利用できます。1=無効（コントロールは非表示になり、機能も利用できません）。
DISABLEFIPSPOLICYWARNING	既定=0、FIPSComplianceMode が RELAXED に設定されているときに表示される警告を無効化しません。on=1
DISABLEIMGUTIL	既定=0、Image アプレットを利用できます。1=Image アプレットを利用できません。
DISABLEMSGEDITZIPOPTION	WinZip Courier 用オプション。既定=0、ユーザーはメッセージ内の Zip 設定を変更できます。On=1、ユーザーはメッセージ内の Zip 設定を変更できません（DISABLEMSGEDITZIPOPTION は Outlook と Web Courier ダイアログの両方に適用されます）。
DISABLENOTIFICATIONSERVICES	既定=TWITTER,TWITTERMESSAGE。ALL - すべてのソーシャルメディアオプションを無効化します。その他の選択肢は NONE、FACEBOOK、LINKEDIN、SLACK、YOUTUBE、JABBER、OFFICE365GROUPS、TEAMS です。
DISABLEPDFUTIL	既定=0、PDF アプレットを利用できます。on=1
DISABLEPERSONALCONTACTS	既定=0、WinZip メーラーで個人のメールアドレスを使用できます。on=1
DISABLERECENTARCHIVES	既定=0、最近使用したアーカイブを記録します。on=1、記録しません。
DISABLERECENTJOBS	既定=0、最近使用したジョブを記録します。on=1、記録しません。
DISABLERECIPIENTSERVICES	既定=NONE。ALL - メールアドレスの宛先サービスを一切利用できなくします。その他の選択肢は NONE、EXCHANGECONTACTS、GOOGLECONTACTS、LDAPCONTACTS、OUTLOOKCONTACTS、OUTLOOKPOCONTACTS、SLACKCONTACTS、YAHOOCONTACTS です。
DISABLESBKUPUTIL	既定=0。1=バックアップアプレットを利用できます。on=0
DISABLESETTINGSFROMCLOUD	既定=0、WinZip の設定をクラウドサービスに保存したり、クラウドサービスから取得したりできます。on=1
DISABLESHAREA	既定=0、SafeShare がインストールされ動作します。off=1、SafeShare は無効になります。
DISABLESHAREDFILES	既定=0、1=Shared files フォルダーを表示します。On=1
DISABLESHORTLINKS	既定=0、リンク短縮オプションが有効です。off=1

プロパティ	説明
DISABLETEACHINGTIP	既定=1、ティーチングヒントの表示およびダウンロードを無効化します。on=0、既定のティーチングヒントが表示されます。今後、新しいティーチングヒントがダウンロードされる場合があります。
DISABLEVIRTUALZIP	既定=0、1=オンデマンドダウンロード用の Zip 仮想化が有効です。off=1
DISABLEVIRTUALZIPMETRICS	既定=0、Zip 仮想化のメトリクスが有効です（既定）。off=1。メトリクスは Zip ファイルのディレクトリのサイズと位置の情報を保存・取得し、クラウド上の Zip ファイルの読み込み速度を最適化します。
DISABLEZIPANDSHARE	既定=0、Zip and Share（WinZip Express）のコンテキストメニュー項目と、[Tools] タブの Zip and Share ボタンが有効になります。1=どちらも利用できません。
DISABLEWEBCOURIER	WinZip Courier 用オプション。既定=0、Web Courier コンポーネントのインストールを許可します。on=1、Web Courier コンポーネントをインストールしません。
ENABLEEXPRESSFEATURES	既定=1、WinZip Express の機能（Zip and Share、Snap and Share、Scan and Share）を利用できます。off=0
ENCRYPTDISABLEMETHODS	既定=DEFAULT、すべて有効。選択肢は AES256 と AES256B です。AES256 は Compatible AES-256 オプション、AES256B は AES-256 Quantum-resistant オプションに対応します。すべての暗号化方式を無効にすると、WinZip の設定の [Encryption] タブが非表示になります。注: AES-256 Quantum-resistant を復号するには WinZip 31.0/77.2 以降が必要です。
ENCRYPTEMAILS	WinZip Courier 用オプション。既定=0、メールを暗号化しません。on=1、メールメッセージを暗号化します。
ENCRYPTREPLACEMENTS	既定=0、ロック解除。暗号化ファイルの更新または削除時にパスワードの入力を必須とするかどうかを、ユーザーが設定できます（WinZip Settings > Advanced）。1=管理者が「有効」にロック（パスワードが常に必要。オプションはユーザーに非表示）。2=管理者が「無効」にロック（パスワードは不要。オプションはユーザーに非表示）。
ENCWIPEDELETE	既定=0、特定のファイルをワイプできない場合に警告メッセージが表示され、その後、通常どおり削除されます。on=1（警告メッセージを抑止し、この種のファイルは削除のみが行われます）。

プロパティ	説明
EVENT_TRACKING	既定=0。1=有効。イベントは、イベントビューアーの [Applications and Services Logs] の下にある WinZip カテゴリに記録されます。
FIPSCOMPLIANCEMODE	既定=DISABLED（WinZip での FIPS モードの使用を無効化）。その他の選択肢は DEFAULT（WinZip がコンピューターの準拠設定に従う）、STRICT（FIPS 承認済みの処理のみを許可）、RELAXED（FIPS 非承認の処理を実行する前に警告を表示）です。
FORCEOLDSHELLEXT	既定=0。1=Windows 11 への WinZip インストール時に、Windows 10 で WinZip が使用していたシェル拡張をインストールします。Windows 10 へのインストールには影響しません。Windows 11 で WinZip の右クリックコンテキストメニューが表示されない問題のトラブルシューティングに使用できます。注: 旧シェル拡張は Windows 11 の右クリックコンテキストメニューの「その他のオプションを表示」の下に表示されます。
HIDEREGINFO	既定=0、[About WinZip] ダイアログ内のリンクを非表示にしません。 on=1
HIDSECMENU	既定=0、「Show WinZip Security Menu」オプションを表示します。off=1
INSTALL[*クラウドサービス名]	既定=1、指定したクラウドサービスのファイルをインストールします。 off=0、指定したクラウドサービスのファイルをインストールしません。 クラウドサービス名は NONE、ALIBABACLOUD、AMAZONS3、AZUREBLOB、BOX、CLOUDME、DROPBOX、FTP、GOOGLECLOUD、GOOGLEDRIVE、IBMCLOUD、IONOS、MEDIAFIRE、OFFICE365、ONEDRIVE、OPENSTACK、OVH、RACKSPACE、S3COMPATIBLE、SHAREPOINT、SUGARSYNC、WASABI、WebDAV、ZIPSHARE です。例: INSTALLZIPSHARE
INSTALLBGBIN	既定=1、ごみ箱のバックグラウンドツールをインストールします。 off=0。オプションについては「クリーナーツールの構成」を参照してください。
INSTALLBGCUST	既定=1、カスタムクリーナーツールのオプションを利用できます。off=0（カスタムクリーナーツールは表示されません）。オプションについては「クリーナーツールの構成」を参照してください。
INSTALLBGDD	既定=1、Duplicate File Cleaner をインストールします。off=0。このツールに他の構成オプションはありません（設定はユーザーが選択します）。

プロパティ	説明
INSTALLBGDNLD	既定=1、ダウンロードのバックグラウンドツールをインストールします。off=0。オプションについては「クリーナーツールの構成」を参照してください。
INSTALLBGDOCS	既定=1、ドキュメントのバックグラウンドツールをインストールします。off=0。オプションについては「クリーナーツールの構成」を参照してください。
INSTALLBGOP	既定=1、Organize Photos ツールをインストールします。off=0。このツールに他の構成オプションはありません（設定はユーザーが選択し、ロックはできません）。
INSTALLBGPICS	既定=1、画像のバックグラウンドツールをインストールします。off=0。オプションについては「クリーナーツールの構成」を参照してください。
INSTALLBGQA	既定=0、Quick Access Folder Cleaner のバックグラウンドツールをインストールしません。on=1。オプションについては「クリーナーツールの構成」を参照してください。
INSTALLBGTEMP	既定=1、一時ファイルのバックグラウンドツールをインストールします。off=0。オプションについては「クリーナーツールの構成」を参照してください。
INSTALLBGZS	既定=1、ZipShare Folder Cleaner のバックグラウンドツールをインストールします。off=0。オプションについては「クリーナーツールの構成」を参照してください。
INSTALLCMD	既定=/autoinstall。必要に応じてスイッチを追加・削除します。/noc4u - Check for Update 機能を無効化して削除します。/nojobrunprompt - WinZip ジョブの実行時に確認ダイアログを表示しないようにします（注意: このパラメーターを使用する前に、ユーザーが WinZip ジョブファイルを自動実行できることのセキュリティ上の影響を必ず検討してください）。/alttext "XXX" - 指定した拡張子を WinZip に関連付けます。つまり、指定した拡張子のファイルをダブルクリックすると WinZip で開きます。/noaad - Zip ファイルをダブルクリックしたときに、WinZip が MS Office ファイルを自動的に開かないようにします。/disableaad - Office ファイルの自動オープン機能をユーザーが変更できないようにします。
INSTALLCOURIER	既定=1、WinZip Courier をインストールします。off=0、WinZip Courier をインストールしません。

プロパティ	説明
INSTALLEDP	既定=0、WIP と呼ばれる Enterprise Data Protection のサポートは無効です。on=1
INSTALLEXPRESSOFFICE	既定=0、WinZip Express for Office をインストールしません。on=1
INSTALLFAH	既定=0、File Association Helper をインストールしません。on=1
INSTALLJOBFILES	既定=0、事前構成済みのジョブファイルをインストールしません。 install=1
INSTALLOMNI	既定=1。アプリ内の利用状況トラッキングが有効です。off=0
INSTALLPREVIEWER	既定=1、エクスプローラー用の WinZip ファイルプレビュー機能を有効にします。off=0
INSTALLUPDATENOTIFIER	既定=0、WinZip を使用していないときに更新に関する通知を表示する更新通知ツールをインストールしません。on=1
INST_EXPL_SHELL	既定=1、WinZip のコンテキストメニューを利用できます。0=シェル拡張（コンテキストメニュー）のインストールを行いません。
LOCKADDONS	既定=0、Express アドオン（インストールされている場合）はロックされません。on=1
LOCKASSOC	既定=0、WinZip のファイルタイプの関連付けをユーザーが変更できるコントロールを有効にします。1=関連付けを変更できるコントロールをすべて無効にします。NOASSOCPROMPT と連動して動作します。
LOCKSECMENU	既定=0、「Show WinZip Security Tools Menu」の選択はロックされません。on=1
LOCKUPDATECHECKS	既定=0、UI はロックされず、ユーザーが更新設定を変更できます。1=更新関連の UI をすべてロックし、ユーザーによる変更を禁止します。
MALWARESCAN	既定=1、WinZip の Threat Scan 機能が有効です。アーカイブファイルをマルウェアスキャンできます。Off=0、Threat Scan 機能は無効になります。
MAXUPSZ_[*サービス名]	既定=0、サービスが許可する最大値。数値を指定すると、アップロードの最大サイズをメガバイト単位で設定します。MAXUPSZ_AMAZON など、10 個の個別のプロパティがあります。

プロパティ	説明
NOASSOCPROMPT	既定=0、ファイル関連付けの強制を無効にし、ユーザーに確認を求めます。1=インストール時に、サポートされるすべてのファイル形式とのWinZipの関連付けを強制します。
NOCAM	既定=0、OutlookのCourierでAttachment Managerが有効です。off=1
NOEDITMAILACCTS	既定=0、WinZipのメール機能用のメールアカウントの追加・編集を許可します。1=禁止します。
NOEDITMAILSVCS	既定=0、WinZipのメール機能用のメールサービスの追加・編集を許可します。1=禁止します。
NOINTERNALEMAILER	既定=0、WinZipのメール機能を利用でき、WinZipの設定に[Email]タブが表示されます。1=利用できません。
NOENCRYPTION	WinZip Courier用オプション。既定=0、Zip圧縮時に暗号化を使用できます。on=1
NOTRYFREE	既定=0、WinZip CourierおよびWinZip SafeShareからの共有メールに、全文・ロゴ・バナーを表示します。1=共有メールの本文から「Don't have WinZip? Try it free」の文言を削除します。2=「Don't have WinZip? Try it free」の文言、上部のWinZipロゴ、下部のCorelロゴ・リンク・バナーを削除します。
NOUPDATECHECKING	既定=1、Courierは利用可能な更新を確認しません。off=0
NOUSERCLOUDDEFAULT	既定=DEFAULT、無効（FALSEと同じ）。ユーザーは既定のクラウドサービスを指定できます。TRUE=ユーザーは既定のクラウドサービスを指定できません。
PASSWORDLENGTH	既定=8、暗号化パスワードの長さのポリシーは8文字です。8から99までの値を指定できます。
PASSWORDREQLOWER	既定=DEFAULT、無効（FALSEと同じ）。TRUEで、暗号化パスワードに小文字を1文字以上含めることを必須にします。
PASSWORDREQNUMBER	既定=DEFAULT、無効（FALSEと同じ）。TRUEで、暗号化パスワードに数字を1文字以上含めることを必須にします。
PASSWORDREQSYMBOL	既定=DEFAULT、無効（FALSEと同じ）。TRUEで、暗号化パスワードに記号を1文字以上含めることを必須にします。

プロパティ	説明
PASSWORDREQUPPER	既定=DEFAULT、無効（FALSE と同じ）。TRUE で、暗号化パスワードに大文字を 1 文字以上含めることを必須にします。
PASSWORDRESTRICT	既定=DEFAULT、無効（ユーザーは WinZip の設定の [Encryption] タブでパスワードポリシーを変更できます）。TRUE - ユーザーはパスワードポリシーを変更できません。
PERP_DIPUS_C4U	既定=0（無効）。1=Enterprise ライセンスのインストールで自動更新機能を有効にします。
SECMENU	既定=1、コンテキストメニューの「Show WinZip File Security Menu」を有効にします。off=0
SHOWZIPSHARETRACKINGFOLDER	既定=1、有効。Shared Files フォルダーが Files ペインに表示されます。off=0
USAGECOLLECTLOCK	既定=0、無効。ユーザーはデータ収集の設定を変更できます。on=1
USAGEPICK	既定=Usage_Yes、データ収集を有効にします。off=Usage_No
WRITABLE_FOLDER_[*サービス名]	既定="\"（ルート）。指定したパスが Share のアップロード操作で使用され、「ZipShare」フォルダー、「timestamp」フォルダー、およびファイルが書き込まれる、ユーザーのルートフォルダーの位置として機能します。
ZIPSHARETRACKINGENABLED	既定=0、無効。ZipShare を使用した共有ファイルの追跡は無効です。on=1

追加の機能

次のプロパティを MSI ファイルの Property テーブルに追加できます。

プロパティ	説明
INSTALLDIR	インストール先のドライブ文字とパスを値として指定します。
USER_WZMUL_LOCATION	登録ファイル（WinZip.wzmul）を格納する共有フォルダーのパスを値として指定します。UNC パスが最も適しています。

カスタマイズの構成

必要な機能を選択したら、インストールをカスタマイズします。Microsoft Orca などの MSI ファイルエディターを使用して、Property テーブルを直接編集するか、1 つ以上の変換ファイル (.mst) を作成できます。上記の表で説明したプロパティは、インストールオプションとして Windows インストーラーのコマンドラインに追加することもできます。その場合の基本構文は次のとおりです。

```
msiexec /Option <Required Parameter> [Optional Parameter]
```

詳細については <https://kb.winzip.com/en/130363> を参照してください。

INSTALLCMD プロパティ

INSTALLCMD は、スイッチを削除または追加するように編集できます。既定値は /noc4u /noaod /disableaod /autoinstall です。/autoinstall スイッチは必ず含める必要があり、かつ最後に置く必要があります。各スイッチの前にはスラッシュ (/) を付け、次のスイッチとの間にスペースを入れる必要があります。各スイッチの目的は次の表のとおりです。

スイッチ	説明
noc4u	Check for Update（更新の確認）機能を無効化して削除します。
nojobrunprompt	WinZip ジョブの実行時に確認ダイアログが表示されないようにします（注意: このパラメーターを使用する前に、ユーザーが WinZip ジョブファイルを自動実行できることのセキュリティ上の影響を必ず検討してください）。
alttext "XXX"	alttext プロパティは、指定した拡張子を WinZip に関連付けます。つまり、指定した拡張子のファイルをダブルクリックすると WinZip で開きます。
noaod	Zip ファイルをダブルクリックしたときに、WinZip が MS Office ファイルを自動的に開かないようにします。
disableaod	Office ファイルの自動オープン機能をユーザーが変更できないようにします（*）。

* 注: /disableaod スイッチを単独で使用しても「自動オープン」は無効になりません。無効化と設定変更の禁止の両方を行うには、/noaod スイッチも併せて使用する必要があります。

言語オプション

DEFAULTLANGID プロパティでアプリケーションの言語を選択できます。このプロパティに設定した値によって、InstalledUILangID レジストリキーに割り当てられる値が決まります。プロパティ表で説明したとおり、次のいずれかを選択できます。

- **0=言語を指定しない。** WinZip は常に現在の OS の言語に一致するよう更新されます。ただし次の 2 つの条件があります。
 - その言語が WinZip でサポートされている必要があります（サポートされていない場合、WinZip は英語になります）。
 - 次の値を設定する必要があります。ALLLANGS=1（すべての言語アセットをインストール）、AUTOLANG=0
- **1=WinZip をインストール時の OS の言語に固定します**（その言語がサポートされている場合。サポートされていない場合は英語になります）。
- **ロケールコード:** 次の言語コードのいずれかを入力して、アプリケーションの言語を指定できます。

1031 - ドイツ語	1040 - イタリア語	1046 - ブラジルポルトガル語
1033 - 英語	1041 - 日本語	2052 - 中国語（簡体字）
1036 - フランス語	1043 - オランダ語	3082 - スペイン語

パスワードポリシー関連のプロパティ

利用可能なパスワードポリシー関連のプロパティは、本章冒頭の表に一覧と説明があります。アルファベット順に、ALWAYSENCRYPT、ENCRYPTDISABLEMETHODS、PASSWORDLENGTH、PASSWORDREQLOWER、PASSWORDREQNUMBER、PASSWORDREQSYMBOL、PASSWORDREQUPPER、PASSWORDRESTRICT です。

ENCRYPTDISABLEMETHODS を使用すると、暗号化方式の一方または両方を無効化できます。複数の方式を無効化する場合は、値をカンマで区切ります。たとえば、暗号化方式を一切使用しない場

合、ENCRYPTDISABLEMETHODS の値は AES256,AES256B とします。

パスワードポリシー関連の各プロパティは、レジストリ設定を作成します。これらのレジストリ設定とその値については「WinZip のレジストリ設定: ポリシーとその他の設定」で説明します。

Contacts 用の統合アドレス帳の構成

WinZip メーラーを使用している場合、統合アドレス帳機能によって複数のソースから連絡先を集約できます。WinZip メーラーは、組織で MAPI クライアント（Outlook など）を使用していない場合に、メールサービスを利用するための WinZip 内蔵のメール機能です。WinZip メーラーは **File > WinZip Settings** から設定できます。[WinZip Settings] ウィンドウの [Settings] 一覧で **Email** をクリックします。WinZip メーラーを使用する場合は、NOINTERNALEMAILER プロパティの値を「0」に設定する必要があります。

[WinZip Settings] ウィンドウで **Contacts** をクリックすると、統合アドレス帳を設定するコントロールが表示されます。連絡先ソースは、MSI ファイル内の 4 つの CONTACTSOURCE プロパティを使用して、インストール時に構成できます。この方法で構成した場合、機能は「ロック」され、ユーザーが独自に他の連絡先ソースを追加することはできなくなります。構成できる連絡先ソースには GOOGLECONTACTS、LDAPCONTACTS、OUTLOOKCONTACTS、OUTLOOKPOCONTACTS、SLACKCONTACTS、YAHOOCONTACTS があります。たとえば、すべてのユーザーが Google の連絡先を利用できるようにするには、次のように設定します。

```
CONTACTSOURCE1=GOOGLECONTACTS
```

LDAP の連絡先ソース（LDAPCONTACTS）や Exchange の連絡先ソース（EXCHANGECONTACTS）を指定することもできます。後者の連絡先ソースには追加のパラメーターが必要です。例:

```
CONTACTSOURCE2=EXCHANGECONTACTS:url=https://10.35.1.10/QRST/Exchange.asmx
```

指定するパラメーターは Exchange サーバーの URL です。

```
CONTACTSOURCE3=LDAPCONTACTS:ip=10.35.1.62,domain=mybusinessinc.com
```

指定するパラメーターは IP アドレスとドメイン名です。

このように連絡先ソースを構成した場合、ユーザーはアドレス帳を初めて使用するときに、各サー

ビスへのサインインを求められます。

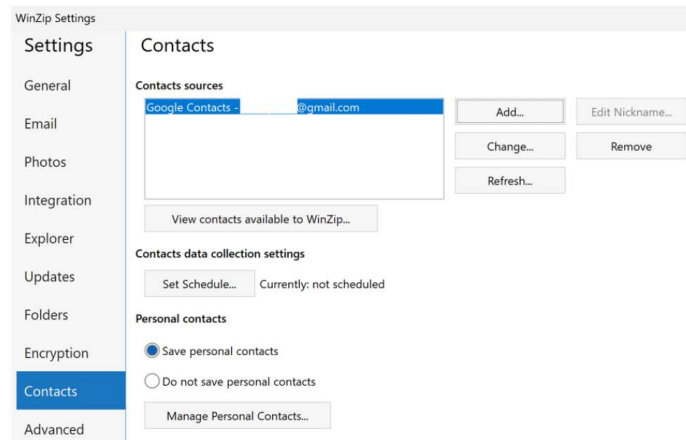


図: 連絡先ソースを構成した状態の [Contacts] ページ

CONTACTSOURCE プロパティをいずれも構成せず、DISABLERECIPIENTSERVICES プロパティによって連絡先ソースの一部または全部を有効にしている場合（つまり GOOGLECONTACTS または NONE に設定している場合）、ユーザーは [WinZip Settings] ウィンドウの [Contacts] ページで **Add** ボタンをクリックし、必要なサービスを追加できます。

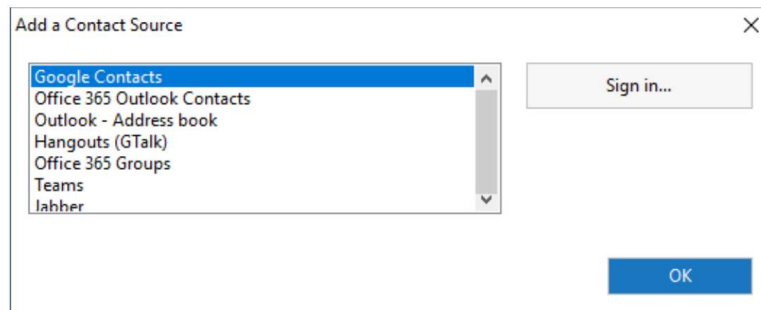


図: [Add a Contact Source] (連絡先ソースの追加) ダイアログ

この方法でユーザーが連絡先ソースを追加した場合、アドレス帳に追加される前にサービスへのサインインを求められます。

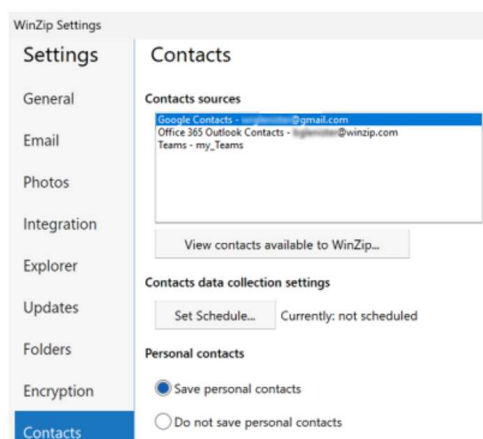


図: [WinZip Settings] の [Contacts] ページ



図: [My Contacts] (連絡先) ウィンドウ

DISABLEPERSONALCONTACTS プロパティの値が 0 に設定されている場合、ユーザーは統合アドレス帳に個々の連絡先を手動で追加できます。

表示方法として **By Source** (ソース別) を選択すると、**Personal** (個人) を含む各ソースのタブが表示されます。個人の連絡先を保存するかどうかは、[WinZip Settings] ウィンドウの [Contact] ページで選択できます。

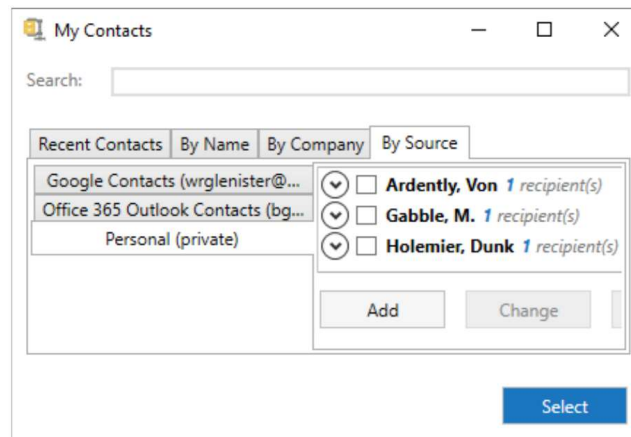


図: By Source (ソース別) 表示

クリーナーツールの構成

クリーナーツールには構成オプションを設定できます。対象は Documents File Cleaner (INSTALLBGDOCS)、Downloads File Cleaner (INSTALLBGDNLD)、Pictures File Cleaner (INSTALLBGPICS)、Quick Access Folders Cleaner、Recycle Bin Cleaner (INSTALLBGDNLD)、Temporary File Cleaner (INSTALLBGTEMP)、ZipShare Folder Cleaner (INSTALLBGZS) です。

アプリケーション側で有効になっている場合、これらのコントロールにアクセスするには、リボンを **Advanced Ribbon** に切り替え (WinZip ウィンドウ右上の Simple Ribbon / Advanced Ribbon の切り替えを使用)、**Backup/Clean** タブで **Old Files** または **Photos** をクリックします。

1 つ以上のクリーナーがインストールされている場合 (MSI の値が 1)、以下の設定で構成できます。

注: クリーナーのタスクは、初回実行を行ったユーザーアカウントで WinZip を初めて実行した後にスケジュールされます。

- **minDays:** クリーニング対象とするファイルの最小経過日数を、ファイルのアクセス日を基準に設定します。1~99998 の数値を指定できます。たとえば 4 に設定すると、アクセスから 0 ~ 3 日のファイルはクリーニングされません。maxDays と組み合わせて範囲を作成できます。

指定しない場合の既定値は 30 です。なお、minDays の設定は Temporary File Cleaner および Recycle Bin Cleaner には影響しません。

- **maxDays:** クリーニング対象とするファイルの最大経過日数を、ファイルのアクセス日を基準に設定します。1~99999 の数値を指定できます。値は minDays の設定より大きくする必要があります。たとえば minDays を 4 とし maxDays を 21 に設定すると、アクセスから 4~21 日のファイルのみがクリーニングされます。指定しない場合の既定値は 99999 です。なお、maxDays の設定は Temporary File Cleaner および Recycle Bin Cleaner には影響しません。
- **locked:** ユーザーがクリーナーツールの設定を変更できるかどうかを決めます。既定ではツールの設定はロックされていません（値=0）。値を 1 にすると設定がロックされます。**注:** 設定をロックする前に、スケジュールを設定しておく必要があります。
- **sched:** 次の設定を使用して、日次・週次・月次のスケジュールを選択できます。
 - **daily:** 日単位でクリーナーをスケジュールします。freq で 1~30 日の値を設定します。たとえば 10 にすると 10 日ごとにタスクが実行されます。パラメーターはあるが値が設定されていない場合、既定は 1 です。freq なしでスケジュールを設定した場合、既定は 2 です。
 - **weekly:** 週単位でクリーナーをスケジュールします。freq で最小 1（週 1 回）から最大 4 までの値を設定します。値が設定されていない場合（または値が無効な場合）は「1」が使用されます。dow で 1~7 の値を選び曜日を指定します（1 が月曜日、7 が日曜日。値が設定されていない場合は現在の曜日が使用されます）。複数の曜日を指定する場合は、値の間に「+」記号を使用します。たとえば火曜・木曜・日曜に実行する場合は、sched=weekly,freq=3,dow=2+4+7 と設定します。
 - **monthly-dom:** 日付（何日）で月次スケジュールを設定します。months で 1~12 の値を選び月を指定します（1 が 1 月、12 が 12 月）。複数の月は値の間に「+」記号を使用して指定できます。また、値を「all」にするとすべての月を選択できます（「all」がある場合、他の値は無視されます）。値が設定されていない場合（またはすべての値が無効な場合）は「all」が使用されます。dom には 1~31 の値、または「last」（月の最終日）を設定して日付を選択します。月内の複数の日付を指定する場合は、値の間に「+」記号を使

用します。たとえば 1 月と 7 月の 15 日に実行する場合は、`sched=monthly-dom,months=1+6,dom=15` と設定します。

- **monthly-dow:** 曜日で月次スケジュールを設定します。months で 1~12 の値を選び月を指定します（1 が 1 月、12 が 12 月）。複数の月は値の間に「+」記号を使用して指定でき、値を「all」にするとすべての月を選択できます（「all」がある場合、他の値は無視されます）。weeks で 1~4 の値を選び、月内のどの週に実行するかを指定します。複数の週は値の間に「+」記号を使用して指定でき、「all」にするとすべての週を選択できます。曜日を選択するには、dow に 1~7 の値を使用します（1 が月曜日、7 が日曜日。値が設定されていない場合は現在の曜日が使用されます）。複数の曜日を指定する場合は、値の間に「+」記号を使用します。たとえば毎月第 1 週と第 3 週の月曜日に実行する場合は、`sched=monthly-dow,months=all,weeks=1+3,dow=1` と設定します。
- **start:** クリーナーの初回実行日を設定します。たとえば 2020 年 5 月 15 日に開始する場合は 20200515（yyyymmdd）と入力します。
- **time:** クリーニングタスクの実行時刻を HHMM 形式（24 時間表記の時・分）で設定します。たとえば午前 9 時に開始する場合は 0900、午後 10 時 30 分に開始する場合は 2230 とします。値が設定されていない場合（または値が無効な場合）、時刻はインストール時刻の次の 30 分単位の時刻が既定となります（午前 9 時 17 分にインストールした場合、午前 9 時 30 分に設定されます）。

例: クリーナーの完全な構成

```
INSTALLBGDOCS:  
1,minDays=90,maxDays=99999,locked=1,sched=daily,freq=10,start=5,time=0600
```

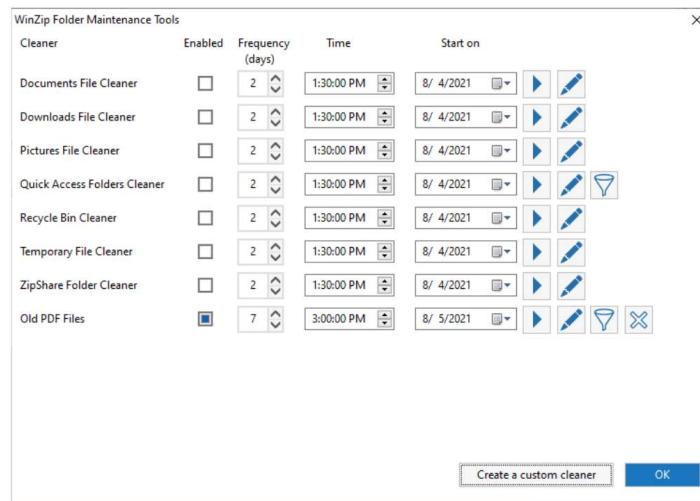


図: Cleaner 一覧にカスタムクリーナー「Clean old PDFs」を追加した例

この例のオプションは Documents フォルダのクリーナーに適用されます。名前のない設定「1」（必ず先頭に記述します）がクリーナーをインストールします。minDays と maxDays の値は、90 日間アクセスされていないファイルをクリーニング対象とすることを示します。locked=1 の設定により、ユーザーはクリーナーの設定を変更できません。ツールは 10 日ごと（sched=daily,freq=10）、金曜日（start=5）の午前 6 時（time=0600）に実行されます。

カスタムクリーナー: Tools にカスタムクリーナーを追加できます。カスタムクリーナー機能（INSTALLBGCUST）は既定では非表示（0）ですが、プロパティ値を 1 に設定すると表示できます。INSTALLBGCUST は他のツールと同じ方法で構成できます。表示されている場合、アプリケーションで **Settings > WinZip Settings > Tools** をクリックし、**Create a custom cleaner** ボタンをクリックしてカスタムクリーナーを作成できます。[New Custom Folder Cleaner] ウィンドウの指示に従い、**OK** をクリックします。カスタムクリーナーにフィルターを設定する場合は、Cleaner 一覧で対象クリーナーのフィルターボタンをクリックし、**Include** タブが開いていることを確認（既定）してから **Add a pattern** をクリックし、使用するワイルドカードとファイル情報を入力します。たとえばすべての PDF をクリーニングする場合は *.PDF と入力します。逆に、**Exclude** タブをクリックして、決してクリーニングしたくないファイル名やファイル形式のパターンを追加することで、一部のファイル形式を除外することもできます。

自動更新機能の構成

注: 自動更新はマイナーバージョンのみを更新します。メジャーバージョンは管理者が手動でインストールする必要があります。

Enterprise ライセンスのインストールでは、以下のプロパティを MSI に設定することで、更新の確認と、新しいマイナーバージョンが利用可能な場合の自動更新を構成できます。自動更新を有効にする構成にすると、WinZip は更新の有無をサーバーに自動的に確認します。更新がある場合、最新のマイナーバージョンのダウンロードとインストールの許可をユーザーに求めます。たとえば、ユーザーが WinZip 30.1 をインストールしており、新しい WinZip 30.2 がリリースされた場合、30.2 が 30.1 に上書きインストールされます。一方、新しいメジャーバージョン 31.0 がリリースされた場合、自動更新機能はそのメジャーバージョンについて確認を求めません。元のインストールで使ったカスタマイズは、更新後のインストールにも引き継がれます。

これらの MSI プロパティは、必ず次のように構成してください。

プロパティ	説明
PERP_DIPUS_C4U	1 に設定して、Enterprise ライセンスのインストールで自動更新機能を有効にします。
DISABLEDIPUS	0 または 1 に設定して、DIPUS による更新を有効にします。
INSTALLCMD	更新の確認を無効にする /noc4u スイッチは使用しないでください。

次の設定は任意で構成できます。

プロパティ	説明
Period	既定=7、更新確認の間隔の日数。値は 1、7、30 のいずれかです。
ASKFIRST	既定=0、WinZip は確認を求めずに自動的に更新をチェックします。1=チェックの前にユーザーに確認します。
LOCKUPDATECHECKS	既定=0、UI はロックされず、ユーザーが更新設定を変更できます。1=更新関連の UI をすべてロックし、ユーザーによる変更を禁止します。

WIP（Windows Information Protection）環境での WinZip の使用

WinZip 31 Enterprise は WIP 対応アプリケーションです。WIP（Windows Information Protection）は、EDP（Enterprise Data Protection）ポリシーを作成するために使用されます。

WIP/EDP はどのような課題を解決するのか

ユーザーのシステムは、そのユーザーがアクセスできるドメインとネットワーク上の場所を列挙することで設定されます。そのため、異なるドメインによって管理されるファイルが混在するネットワーク上の場所が生じることがあります。結果として、ユーザーが本来アクセスすべきでないファイルにアクセスできてしまう可能性があります。WIP/EDP（Enterprise Data Protection）は、そのファイルを管理するドメインから許可を得ていないユーザーが、これらのファイルを開くことを制限します。

解決策: 業務ファイルと個人ファイルの区別

WIP/EDP（Enterprise Data Protection）では、ファイルは業務用（work）と個人用（personal）に区別されます。業務ファイルは管理ドメインに紐づけられ、セキュアな場所にのみ配置できます。個人ファイルを同じ場所に置くことはできますが、扱いは異なります。業務としてタグ付けされたファイルに対する操作は制限されますが、個人ファイルには制限がありません。

WinZip を WIP 環境で使用方法の詳細については、「WinZip Enterprise and Windows Information Protection (WIP)」を参照してください。

WinZip を WIP 環境で使用する際の重要事項

- WinZip を WIP 環境に導入した場合、一時的に展開されたファイルをワイプ（完全消去）できません。その旨を示すダイアログボックスが表示されないようにするため、導入前に ENCWIPEDELETE プロパティの値を 1 に設定することを推奨します。この設定により、WinZip は一時的に展開されたファイルを単に削除し、ワイプに関するダイアログボックスは表示されません。

- ユーザーは、社外のクラウド、ソーシャルメディア、インスタントメッセージなどの安全でない場所に、業務ファイルを保存または展開することはできません。
- ユーザーは、WinZip から WIP 非対応のアプリケーションへ業務ファイルをコピー＆ペーストまたはドラッグ＆ドロップすることはできません。
- 業務ファイルとしてタグ付けされたファイルは、ユーザーが明示的に変更しない限り、そのタグを保持する必要があります。これは Convert to PDF など、WinZip のファイル変換機能を通したファイルにも適用されます。
- セキュアなネットワークリソースおよびクライアントデバイスはすべて NTFS でフォーマットされ、暗号化ファイルシステム（EFS）が有効になっています。
- 社内で管理するクラウドは、セキュアなリソースの一覧に追加することで、オフィス内およびリモートから利用できるようになります。

Windows 添付ファイルマネージャー環境での WinZip の使用

Windows は既定では Zip ファイル (.zip または .zipx) 自体を高リスクとは見なしませんが、その中に含まれる一部のファイルを高リスクと見なす場合があります。Zip ファイルをダウンロードすると、Windows はその Zip ファイルが「インターネットゾーン」から取得されたことを示すようにゾーン識別子を設定します。Outlook や Windows メールでメールの添付ファイルとして Zip ファイルを受信した場合、メールプログラムはその Zip ファイルが「制限付きゾーン」から取得されたことを示すようにゾーン識別子を設定します。Zip ファイルは一般に高リスクとは見なされないため、Windows はいずれの場合も Zip ファイルを開くことを許可します。ただし WinZip は、Zip ファイルのゾーン識別子を、展開しようとするすべてのファイルに適用し、その情報を Windows 添付ファイルマネージャーに渡します。添付ファイルマネージャーは、展開をブロックすべきファイルがあるかどうかを判断します。展開が許可されたファイルは、展開先が NTFS ドライブである限り、Zip ファイルに付いていたものと同じゾーン識別子を引き継ぎます。そのため、以後これらのファイルを開こうとする操作も添付ファイルマネージャーの規則に従います。

Windows 添付ファイルマネージャーについては、「Information about the Attachment Manager in Microsoft Windows」を参照してください。

組織全体でのパスワード管理

WinZip Enterprise では、管理者が組織全体で利用できるキーを設定し、個々の従業員が WinZip で暗号化した .zip および .zipx ファイルのロックを解除できるようにすることができます。目的は、元の暗号化パスワードが失われたり利用できなくなった場合でもファイルを復号できるようにし、データ損失を防ぐことです。このしくみでは、Windows のデジタル証明書を使用して秘密鍵と公開鍵のペアを作成し、個々の .zip および .zipx ファイルに関連付けられたパスワードを暗号化します。その後、組織の秘密鍵を使用して、対応するファイルのパスワードを取得・復号できます。組織のキーは、パスワード情報を失うことなく更新できます。管理者は複数の組織キーを設定することも可能です。

組織全体のパスワード機能は、ユーザーが WinZip でファイルを暗号化・復号する方法を変えるものではありません。管理者がユーザーのシステムに公開鍵を構成した後、ユーザー側での追加操作は不要です。

重要: 管理者は、組織全体でのパスワード運用を検討する前に、自社環境のセキュリティ手順を十分に確認してください。

ユーザー証明書のアクセス方法の選択肢

ユーザー証明書のアクセス方法は、次の値で指定できます。

- **SS=NM: My** — WinZip は [現在のユーザー] の [個人] にインストールされた証明書を参照します（ユーザー単位のアクセス）。
- **SS=NM: Root** — WinZip は [現在のユーザー] または [ローカルコンピューター] の [信頼されたルート証明機関] にインストールされた証明書を参照します。
- **SS=NM: Trust** — WinZip は [現在のユーザー] または [ローカルコンピューター] の [エンタープライズの信頼] にインストールされた証明書を参照します。

- **SS=NM: CA** — WinZip は [現在のユーザー] または [ローカルコンピューター] の [中間証明機関] にインストールされた証明書を参照します。

例: 1 台のコンピューターのすべてのユーザーに .cer を配布する場合は、[エンタープライズの信頼]、[中間証明機関]、または [信頼されたルート証明機関] に配置します。

管理者側のセットアップ

管理者は、次の手順で WinZip 用に組織全体の公開鍵暗号（PKC）を設定できます。

注: 証明書をインポートする際（ツール: Microsoft 管理コンソール（MMC）の証明書のインポートウィザード）は、インポートオプションの **Mark this key as exportable**（このキーをエクスポート可能にする）を必ず有効にしてください。

証明書とレジストリの設定

1. 任意のツールで Windows のデジタル証明書を生成します。Windows 証明書ストア用の X.509 証明書は、次のパラメーターを使用する必要があります。
 - Subject に WinZip を名前の一部として含めること
 - CerStoreLocation: 個々のユーザー向けは cert:\CurrentUser\My、1 台のコンピューターの複数ユーザー向けは cert:\Root、cert:\Trust、または cert:\CA
 - KeySpec = KeyExchange
 - KeyUsage = KeyEncipherment

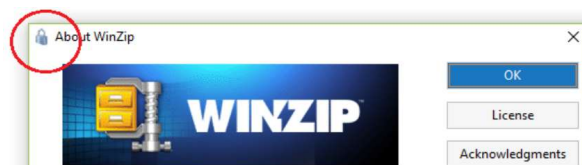


図: [About WinZip] に表示される鍵アイコン

2. 証明書の Thumbprint（拇印）コードをコピーして保存します。

3. 公開証明書へのユーザーアクセスを設定します（ユーザーのローカルシステム上またはリモートのいずれでも可）。
4. ユーザーのシステムに WinZip Enterprise をインストールした後、任意の方法で次のレジストリキーを更新します。
 - レジストリの場所: HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WinZip Computing\WinZip\Policies
 - 名前: EntX509Certificate
 - データ値: SS=NM:My;FT=SHA1:[Thumbprint コード]。例:
`SS=NM:My;FT=SHA1:710B6D9F61977FB12604FD238845E4459EA9081A`

注: 複数ユーザー構成を作成する場合、My は別の値に置き換えます。

5. WinZip Enterprise で **Help > About** をクリックし、ユーザーのコンピュータでパスワード暗号化のしくみが機能していることを確認します。正しく構成されていれば、ダイアログボックスの左上に鍵のアイコンが表示されます。

パスワードの取得と組織証明書の更新

パスワードの取得と組織証明書の管理には、管理者が Microsoft 管理コンソール（MMC）用の WinZip Enterprise スナップインを使用します。

管理者システムへの WinZip Enterprise スナップインのインストール

1. 秘密鍵がインストールされている管理者システムに EWP MMC Snap-in.msi をコピーし、コンポーネントをインストールします。
2. Microsoft 管理コンソール（MMC）を開きます。
3. **File** メニュー > **Add/Remove Snap-in** をクリックします。
4. 利用可能なスナップインの一覧から **WinZip Enterprise-Wide Password Snap-in** を選択し、**Add**、**OK** をクリックします。

パスワードの取得

1. MMC ウィンドウ左側のナビゲーションペインで **Decrypted zip files list** をクリックします。
2. MMC ウィンドウ右側の [Actions] ペインで **Get user's passwords** をクリックします。
3. 復号が必要なファイルを選択し、**Open** をクリックします。
4. [Windows セキュリティ] ウィンドウで、該当する組織証明書を選択します（複数の証明書を設定している場合）。
5. パスワードの復号結果が中央のペインに表示されます。

暗号化ファイル用の組織証明書の更新

1. 新しい証明書を生成した後（要件は「管理者側のセットアップ」を参照）、Microsoft 管理コンソール（MMC）を開きます。
2. 左ペインで **WinZip Enterprise Wide Password > Update key records** を選択します。
3. 右側の [Actions] ペインで **Use a different enterprise key** をクリックします。
4. キーを変更する対象のファイルが含まれるフォルダーを選択し、**OK** をクリックします。
5. [Windows セキュリティ] ウィンドウで現在の証明書を選択し、**OK** をクリックします。
6. 2 つ目の [Windows セキュリティ] ウィンドウで新しい証明書を選択し、**OK** をクリックします。

WinZip Express

WinZip Enterprise には、利用可能なすべての WinZip Express 機能とアドオンが含まれます。さらに、機能豊富な WinZip® Courier™ も同梱されており、これまでで最も便利で強力な WinZip 環境を構築できます。

各拡張機能はそれぞれユーザーの生産性を高めますが、すべてをインストールする必要はありません。なお、WinZip のインストールに加えたカスタマイズは WinZip Express にも影響します。たとえば、利用可能なクラウドサービスのいずれかを無効にした場合、WinZip Express から Zip 操作を行うときもそのサービスは利用できません。

WinZip Courier とあわせて、次のいずれかをインストールするかどうかを選択できます。

- WinZip Express の各機能
 - WinZip Snap and Share
 - WinZip Scan and Share
 - WinZip Express for Office

機能のインストール

WinZip Express の各機能は、MSI ファイル内の該当プロパティに値「1」を設定することでインストールできます。

アドオンのインストール

WinZip Express for SharePoint は、WinZip Express の利便性を SharePoint の Documents Web インターフェイスに直接もたらします。SharePoint の Web インターフェイスのドロップダウンメニュー項目として Zip and Share を利用できるようにするには、このアドオンを SharePoint サーバーにインストールする必要があります。WinZip 本体はサーバーに置く必要はありませんが、対象となる各クライアントコンピューターにインストールして登録する必要があります。

注: WinZip Enterprise をインストールすると、SharePoint クラウドサービスが含まれます。有効にすると、WinZip Enterprise のユーザーは Dropbox や Google Drive など他のクラウドサービス

とほぼ同じように利用できます。

WinZip Express の機能概要

ファイルやフォルダーを Zip 圧縮するための WinZip コンテキストメニューは、今も非常に便利です。WinZip Express はそのコンテキストメニューの機能を拡張・改善し、多くの新しく有用な機能を提供します。WinZip Express の各機能とアドオンは、いずれも WinZip Express ダイアログを使用します。使用する WinZip Express コンポーネントによって、一部の機能は変化したり省略されたりします。以下は WinZip Express for Explorer のダイアログと、各要素の説明です。

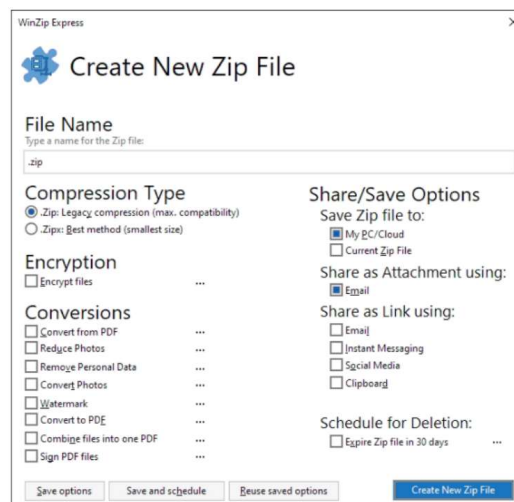


図: WinZip Express for Explorer ダイアログ

注: WinZip Express for Explorer のコマンドは、WinZip の Files ペインの右クリックメニューにのみ表示されます。エクスプローラーの右クリックメニューからは利用できません。

File Name (ファイル名)

WinZip Express を開くと、このテキストボックスに既定のファイル名が表示されます。別の Zip ファイル名を入力するには、このボックスをクリックします。

Compression Type (圧縮形式)

WinZip Express は既定の圧縮形式をあらかじめ選択します。従来の WinZip コンテキストメニューと異なり、WinZip Express では用途に応じて圧縮形式を .Zip から .Zipx (またはその逆) に変更できます。

Encryption (暗号化)

Zip 圧縮するファイルは、WinZip の設定タブで設定した暗号化強度を使用して暗号化することもできます。Always Encrypt プロパティが管理者によって設定されている場合、このオプションはチェック済みかつグレー表示になります。すべての暗号化強度が無効になっている場合は、利用できないことを説明するダイアログが表示されます。FIPS 140-3 が構成されている場合、WinZip Express はそれに準拠します。

Conversions (変換)

変換オプションは任意の組み合わせで選択できます。これらは該当するファイル形式にのみ適用されます。利用できる変換は次のとおりです。

- **Reduce Photos** — 画像ファイル (BMP、DIB、EXIF、GIF、JPG、PNG、TIF) を、設定した小さい寸法にリサイズします。
- **Remove Personal Data** — ファイル (DOC、DOCX、GIF、JPG、PDF、PNG、PSD、PPT、PPTX、XLS、XLSX) から EXIF メタデータを削除します。詳細と例外については「Remove Personal Data」を参照してください。
- **Convert Photos** — 画像ファイル (BMP、GIF、JPG、JP2、PNG、PSD、TIF、WEBP) を別のファイル形式に変換します。
- **Watermark** — 画像ファイル (BMP、GIF、JPG、PDF、PNG、TIF) に、設定した位置と方法で透かし文字を配置します。
- **Convert to PDF** — ドキュメントファイル (DOC、DOCX、XLS、XLSX、PPT、PPTX) を、Zip ファイルへの追加時に PDF ファイルに変換します。

- **Combine PDFs** — 2 つ以上の PDF ファイルを 1 つの PDF ファイルに結合します。
- **Sign PDF Files** — セキュリティを高めるために PDF ファイルに署名します。

Share/Save Options (共有・保存オプション)

WinZip Express には、Zip ファイルの共有と保存に関する複数のオプションがあります。

Save Zip file to: (Zip ファイルの保存先)

- **My PC/Cloud** — Zip ファイルをローカルドライブ、外付けドライブ、ネットワーク上の場所、または構成済みの任意のクラウドサービスに保存します。

Share as Attachment using: (添付ファイルとして共有)

- **E-mail** — Zip ファイルをメールで送信します。

Share as Link using: (リンクとして共有)

- **E-mail** — メールで共有します。Zip ファイルをクラウドサービスにアップロードし、受信者にダウンロード用のリンクを送信します。
- **Instant Messaging** — Zip ファイルをクラウドサービスにアップロードし、サポートされているインスタントメッセージングサービスのいずれかにリンクを配置します。
- **Social Media** — Zip ファイルをクラウドサービスにアップロードし、Facebook または LinkedIn にダウンロード用のリンクを配置します。
- **Clipboard** — Zip ファイルをクラウドサービスにアップロードします。ダウンロード用のリンクがクリップボードにコピーされるため、任意の媒体に貼り付けられます。

Schedule for Deletion (削除のスケジュール)

Zip ファイルに有効期限を設定し、その時点でファイルを削除できます。一定期間だけ利用できればよい共有ファイルが蓄積しないようにするうえで、特に有用です。

Automation options（自動化オプション）

これらのボタンにより、WinZip Express の設定を保存して再適用したり、保存した一連の操作を WinZip Express が自動実行するようスケジュールしたりできます。

- **Save options** — 現在の WinZip Express の設定を、後で利用できるオプションファイルに保存します。
- **Save and schedule** — 現在の WinZip Express の設定を保存し、単発または繰り返しの WinZip Express 操作のスケジュールを設定します（Windows タスクスケジューラを使用）。
- **Reuse saved options** — 以前保存したオプションファイルから WinZip Express の設定を適用します。

クラウドサービスに関する注意: クラウドサービスへのアップロードが必要な Zip ファイルの保存先を選択した場合、有効になっているサービスの中から保存先を選択できるダイアログが表示されます。

WinZip Snap and Share

WinZip Snap and Share 機能は、写真の取り込み処理のダイアログ数を 2 つに削減し（WinZip Camera Wizard では 5 つ）、作業を効率化します。WinZip Camera Wizard と同様に、WinZip Snap and Share ではデジタルカメラから画像を取得し、圧縮して Zip ファイルに保存できます。WinZip Snap and Share は、自動再生ダイアログで **Zip from camera** を選択した後に USB ポートにカメラを接続したとき、または [Backup] タブの **Photos** をクリックしたときに起動します。

ダイアログの 1 ページ目には、検出されたカメラ、写真の取得オプション、カメラから写真を削除するオプションが表示されます。既定の設定をそのまま使用することも、各項目を簡単に変更することもできます。

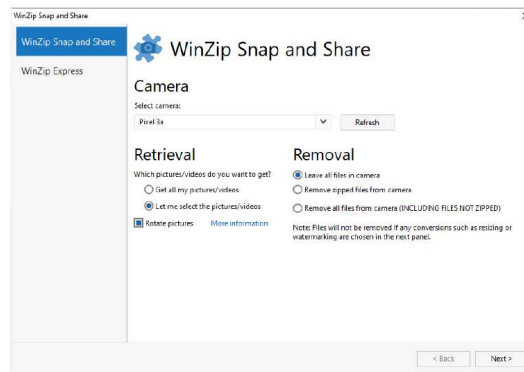


図: Snap and Share ダイアログ (1 ページ目)

ダイアログの 2 ページ目は WinZip Express for Explorer のものとよく似ていますが、次の点が異なります。

- 日付 (yyyymmdd) と時刻 (hhmmss) に基づく推奨名が File Name テキストボックスにあらかじめ入力されます。
- 写真には該当しないため、PDF 変換オプションは提供されません。
- 追加の保存オプション **Current Zip File** が利用でき、Zip ファイルを開いている状態で WinZip Express を使ってその Zip ファイルに写真を追加したい場合に使用できます。

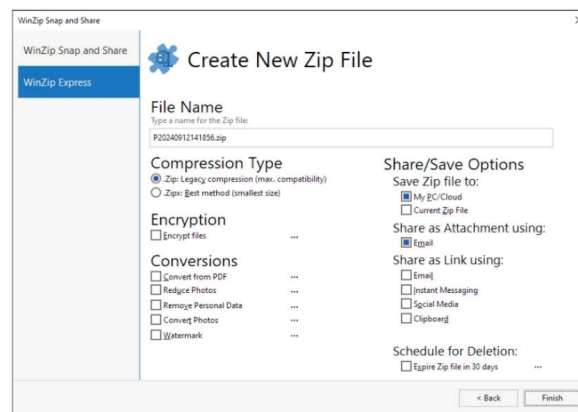


図: Snap and Share ダイアログ (2 ページ目)

WinZip Scan and Share

WinZip Scan and Share 機能では、スキャナーから直接画像を取り込んで共有できます。スキャンした画像を圧縮して Zip ファイルに保存できます。WinZip Scan and Share は、USB ポートにスキャナーが接続されているときに WinZip で利用できます。

1 ページ目のダイアログには、検出されたスキャナーが表示され、スキャン画像の名前を入力でき、画像形式のオプションが用意されています。

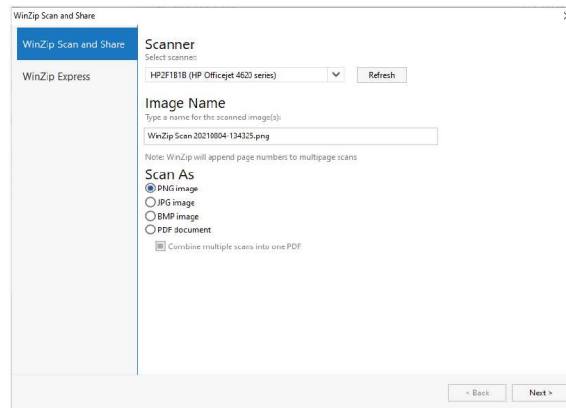


図: Scan and Share ダイアログ (1 ページ目)

2 ページ目には、Snap and Share の WinZip Express ページと同じオプションが表示されます。

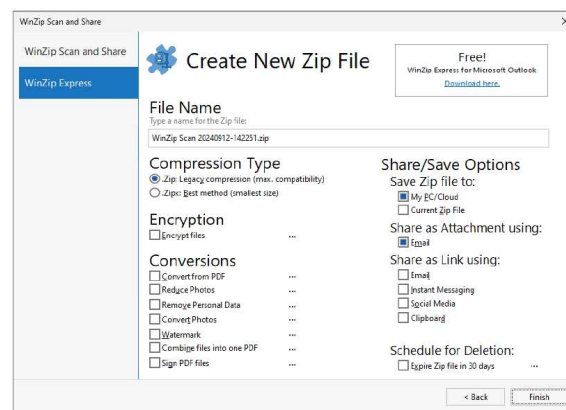


図: Scan and Share ダイアログ (2 ページ目)

WinZip Express for Office

WinZip Express for Office 機能は、Microsoft Word、Microsoft PowerPoint、Microsoft Excel の [File] メニューに Zip and Share 機能を追加します。Microsoft Office のバージョンやウィンドウのサイズによっては、Zip and Share (WinZip Express) の項目が一覧の **More** の下に表示される場合があります。有効になっているサービスに応じて、Zip ファイルをメールで共有したり、クラウドサービスにアップロードしたり、クラウドサービスやソーシャルメディアからリンクを共有したりできます。WinZip Express for Office は Microsoft Office 2019 以降に対応しています。

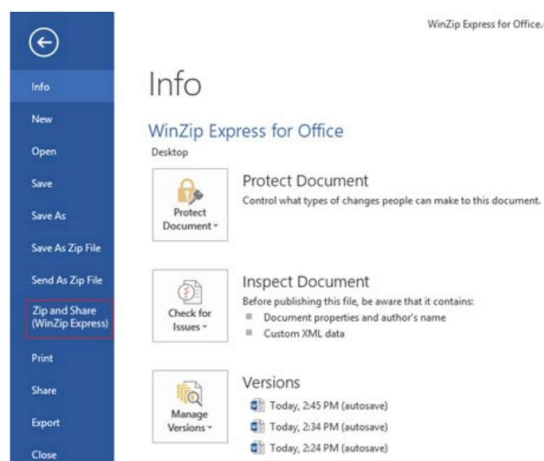


図: WinZip Express for Office

この機能は WinZip Courier でも利用できるため、WinZip Enterprise のインストールでは既定で無効になっています。

WinZip アプレット: WinZip PDF Express、WinZip Image Manager、WinZip Secure Backup、WinZip Duplicate File Finder、WinZip Safe Share

アプレットは、WinZip Enterprise 内から起動することも、完全に単独で使用することもできるユーティリティです。たとえば WinZip PDF Express では、WinZip を開かずに PDF ファイルのページの追加・削除・抽出や、透かしの追加が行えます。アプレットは特定の業務フローで使用するツールを統合し、機能を拡張します。WinZip Enterprise には次のアプレットが含まれます。

- **WinZip PDF Express:** PDF ファイルの作成・変換・編集・ロック・署名を行う幅広い PDF ツールを統合します。WinZip からアプレットにアクセスするには、**Tools** をクリックし、リボンで **PDF Files** をクリックするか、Actions パネルの **PDF** ボタンをクリックします。設定は **File > PDF Settings** にあります。
- **WinZip Image Manager:** 画像ファイルの変換・編集を行う幅広い画像管理ツールを統合します。WinZip からアプレットにアクセスするには、**Tools** をクリックし、リボンで **Image Files** をクリックするか、Actions パネルの **Image** ボタンをクリックします。設定は **File > Settings** にあります。
- **WinZip Secure Backup:** スケジュールや暗号化のオプションを含むバックアップ・復元機能を統合します。WinZip からアプレットにアクセスするには、**Backup/Clean** をクリックし、リボンで **Folder** をクリックするか、Actions パネルの **Backup** ボタンをクリックします。
- **WinZip Duplicate File Finder:** Documents、Downloads、Pictures の各フォルダー内の重複ファイルの検索と削除を統合します。検索対象のフォルダーと検索の頻度は変更できます。WinZip からアプレットにアクセスするには、**Backup/Clean** をクリックし、リボンで **Duplicate Files** をクリックします。
- **WinZip Safe Share:** ファイルやフォルダーの共有・圧縮・暗号化を統合します。アプレットにアクセスするには、デスクトップの WinZip Safe Share ショートカットをダブルクリックするか、ファイルまたはフォルダーを右クリックします。

Enterprise の管理者は、次のプロパティでこれらのアプレットを管理できます。

- **DISABLEIMGUTIL:** WinZip Image Manager を利用可能にするかどうかを指定します。
- **DISABLEPDFUTIL:** WinZip PDF Express を利用可能にするかどうかを指定します。
- **DISABLESBKUPUTIL:** WinZip Secure Backup を利用可能にするかどうかを指定します。
- **DISABLESHAREA:** WinZip Safe Share を利用可能にするかどうかを指定します。
- **INSTALLBGDD:** WinZip Duplicate File Finder を利用可能にするかどうかを指定します。
- **DISABLEDIPUS:** アプレットの更新を制御します。
- **ADDDESKTOPICON:** デスクトップアイコンを追加できます（WinZip 本体とアプレットに適用）。
- **ADDFILEASSOCIATION:** ファイル形式の関連付けと「プログラムから開く」メニューのオプションを提供します。
- **ADDSTARTMENU:** アプレットを [スタート] メニューに追加できます（WinZip 本体とアプレットに適用）。

上記のプロパティの詳細については「WinZip MSI ファイルのカスタマイズ」を参照してください。

変換機能・クラウドサービス・ソーシャルメディア

本セクションで扱う 3 つの機能群は、あまり馴染みがないかもしれませんが、いずれも有効にすると非常に役立ちます。これらの機能は WinZip Express と WinZip のユーザーインターフェイスから利用できます。WinZip Enterprise の導入を計画する際は、以下の情報もご検討ください。

変換機能 (Conversions)

変換とは、Zip ファイルに含まれるファイルに対して恒久的な変更を加える操作です。暗号化は特殊な変換で、ファイルを元の形式から暗号化された形式に変換します。ただし暗号化は、展開時に正しいパスワードを入力することで元に戻せ、他の変換が使用されていないければ、展開後のファイルは元のファイルと完全に同一になります。その他の変換については以下で説明します。

Zip 圧縮するファイルを変換するかどうかは、WinZip のユーザーインターフェイスの [Zip] リボン、開いている Zip ファイルからファイルを共有するときの [Send Selected Files] ダイアログ、または WinZip Express で選択できます。Zip 圧縮するファイルに画像ファイルが含まれている場合、Zip and Email または Zip and Email Plus を使用したときにも Reduce Photo Size 変換が提供されます。

Encryption (暗号化)

この変換オプションでは、Zip ファイルの暗号化方式を設定できます。[Encryption Method] 領域で次のいずれかを選択します。

- AES-256 Quantum-resistant
- Compatible AES-256

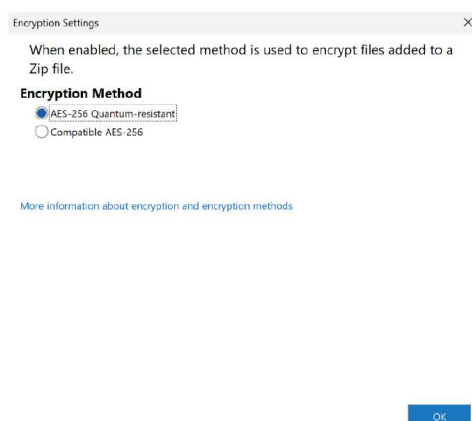


図: 暗号化方式の選択

Reduce Photos (写真の縮小)

この変換オプションは、次のサポート対象の写真・画像ファイルで使用できます。BMP、DIB、EXIF、GIF、JPG、PNG、TIF。縮小すると寸法が小さい画像が作成され、ファイルサイズも大幅に小さくなります。画像の寸法を小さくすると解像度も下がります。共有目的では通常問題ありませんが、印刷には適しません。画質が重要な場合は縮小しないでください。

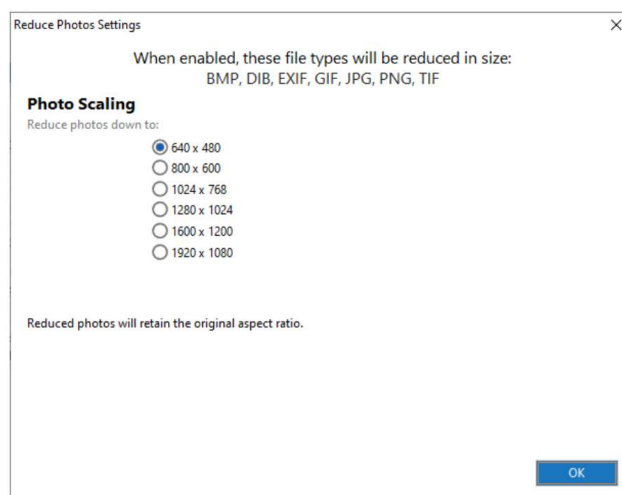


図: Reduce Photos の設定

Remove Personal Data (個人データの削除)

この変換オプションは、ファイルから EXIF メタデータを削除するために使用します。サポート対象のファイル形式は DOC、DOCX、GIF、JPG、PDF、PNG、PSD、PPT、PPTX、XLS、XLSX です。ファ

イル形式によって含まれるメタデータの種類は異なります。このオプションを有効にすると、次の項目を除くすべてのメタデータがファイルから削除されます。

- Copyright
- Rights
- Producer

Convert Photos（画像形式の変換）

この変換オプションは、写真などの画像ファイルを別のファイル形式に変換するために使用します。場合によっては、別の形式に変換することでファイルサイズが小さくなります。また、共有のために画像を共通のファイル形式に変換する用途にも有用です。サポート対象のファイル形式は BMP、GIF、JPG、JP2、PNG、PSD、TIF、WEBP、SVG です。

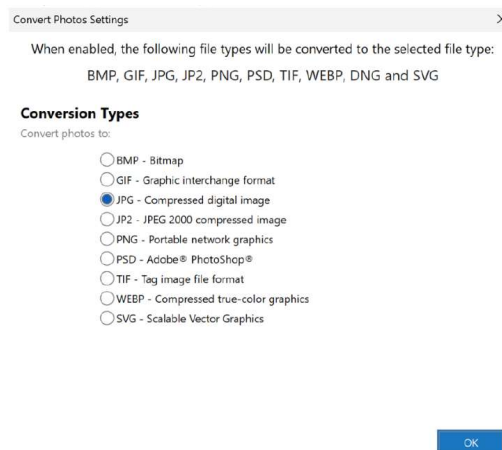


図: Convert Photos の設定

Watermark（透かし）

この変換オプションは、画像や PDF ファイルに画像または文章・文字列（例: Confidential, do not copy）を重ねて保護するために使用します。透かしを適用できるサポート対象のファイル形式は BMP、GIF、JPG、PDF、PNG、TIF です。透かしとして使用できるサポート対象の画像形式は BMP、JPG、JPEG、PNG、TIF です。

このオプションを初めて選択すると [Watermark Settings] ダイアログが開き、ユーザーインターフェイスで編集できます。次のオプションがあります。

- **Use an image in the watermark** — 透かしに画像を使用します。
- **Use text in the watermark** — 透かしにテキストを使用します。上記 2 つのオプションは同時に選択できます。
- **Open** — 透かしとして使用する画像を参照して選択します。
- **Text** — 既定のテキストをそのまま使用するか、必要に応じて変更します。
- **Font** — 使用するフォントの種類とサイズを選択します。

注: 透かしを適用した非常に大きな画像を縮小表示（shrink-to-fit）で表示すると、透かしが予想より小さく見える場合があります。

- **Include a date stamp** — 日付スタンプを含めます。
- **Include a time stamp** — 時刻スタンプを含めます。
- **Direction** — テキストを表示する向きを選択します。
- **Transparency** — テキストの透明度を設定します。
- **Placement** — 透かしを表示する位置を選択します。位置は図で示されます。
- **Overlay Order** — 重ね順を指定します。
 - Text over image（テキストを画像の上に重ねる）
 - Image over text（画像をテキストの上に重ねる）

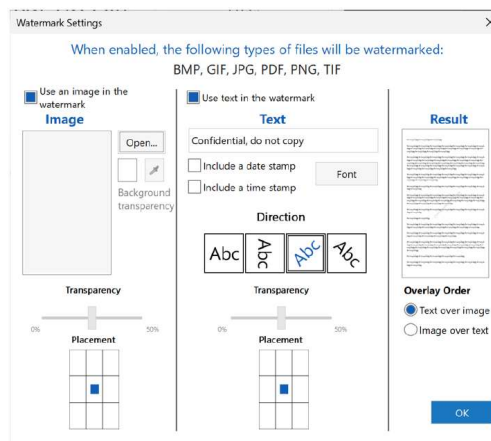


図: Watermark Settings ダイアログ

Convert from PDF (PDF からの変換)

この変換オプションでは、PDF ファイルを DOCX、DOC、BMP、JPG、PNG、TIF 形式に変換できます。初回使用時には、ファイル形式の一覧を含む [PDF Convert from PDF Settings] ダイアログが表示されます。

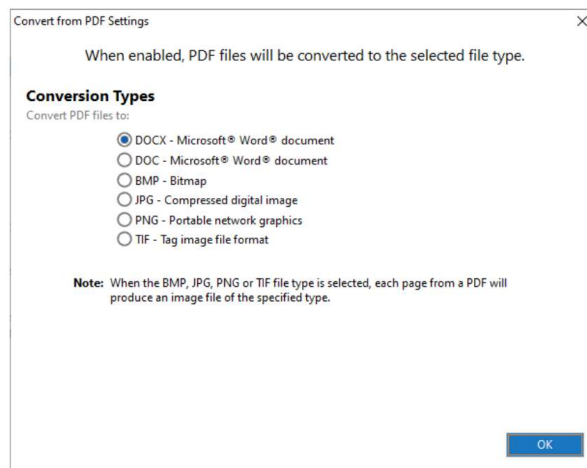


図: Convert from PDF の設定

Convert to PDF (PDF への変換)

この変換オプションは、Microsoft Word、Excel、PowerPoint のファイル、および一部の標準的な画像・メタデータファイル形式に対応します。初回使用時には [PDF Conversion Settings] ダイアログが表示されます。サポート対象のファイル形式の全一覧は、このダイアログに表示されます。

既定では、テキストの編集とコピーが可能な PDF ファイルが作成されます。その他のオプションとして、Word のコメントの削除や、読み取り専用 PDF の作成があります。

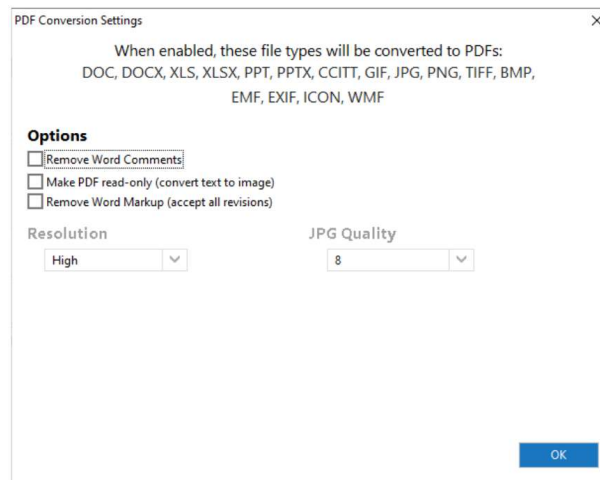


図: PDF Conversion Settings ダイアログ

読み取り専用 PDF には、PDF の解像度と JPG の品質に関するオプションがあります。ほとんどがテキストの文書を読み取り専用 PDF に変換すると、変換後のファイルサイズは大幅に大きくなる可能性があります。一方で内容のコピーは難しくなり、セキュリティ上の懸念が軽減されます。

Combine Files into a PDF（複数ファイルを 1 つの PDF に結合）

この変換では、2 つ以上の PDF ファイルを 1 つの PDF ファイルに結合できます。次の既定設定を選択できます。

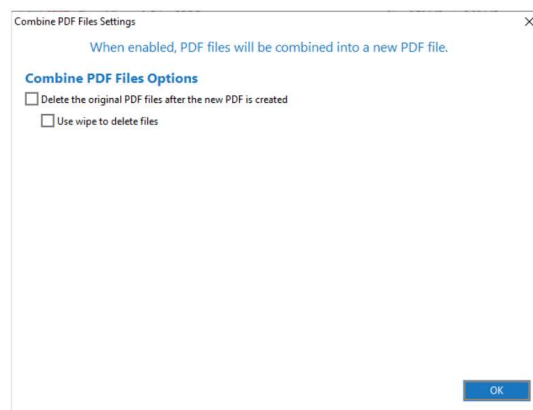


図: Combine PDF Files Settings ダイアログ

- **Delete the original PDF files after the new PDF is created:** 新しい結合 PDF を作成した後に、元の PDF ファイルを削除する場合に有効にします。

- **Use wipe to delete files:** 削除したファイルを復元できないようにする場合に、このチェックボックスを有効にします（ワイプは、文書のシュレッター処理の電子版と考えられることがあります）。

この機能を使用すると、次のオプションを含むダイアログボックスが開きます。

- **Set the order of the PDF files:** サムネイルをドラッグして、新しいファイル内での PDF の順序を設定します。
- **New PDF File name:** 結合後の PDF の名前を入力します。
- **Destination:** ファイルの保存先を選択します。
- **Additional Options:** これらのオプションは既定設定としても利用できます。説明は上記を参照してください。

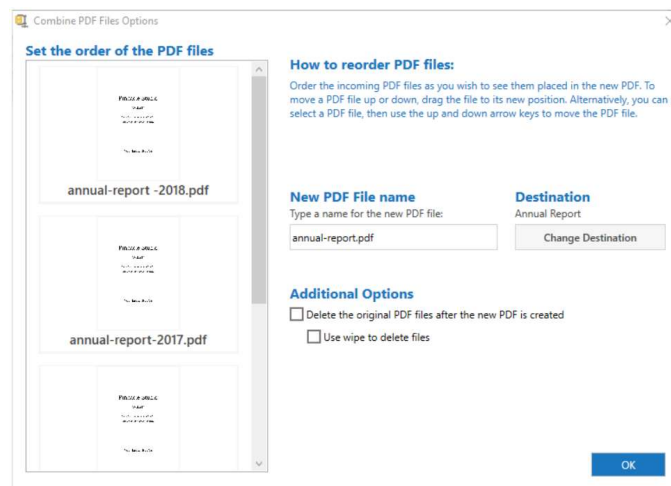


図: PDF の結合

Sign PDF Files（PDF ファイルへの署名）

この変換オプションでは、WinZip の内外で作成された PDF に署名できます。この機能を有効にすると、次のオプションを含むダイアログボックスが開きます。

- **Certificate location options:** 固定の場所を選択するか、毎回場所を指定するよう求めるかを選択します。

- **Certificate source:** ローカルの証明書を選択するか、Windows 証明書ストアから取得するかを選択します。
- **Certificate password options:** 固定のパスワードを設定するか、PDF に署名するたびにパスワードの入力を求めるかを選択します。パスワードを設定した場合、次に設定を開いたときにパスワードボックスに表示されます。なお、パスワードを必要としない証明書もあります。その場合、Certificate password options は非表示になります。
- **Signature information:** このセクションは任意で、有用な詳細情報を追加できます。

図: PDF 署名の設定

クラウドサービス（Cloud Services）

数多くのクラウドサービスが利用可能となり、個人利用・業務利用のいずれでも普及が進んでいます。WinZip Enterprise は、さまざまなクラウドサービスの活用を最適化するとともに、ユーザーに対する提供可否を統制する手段も提供します。WinZip Enterprise は次のクラウドサービスをサポートします。

Alibaba Cloud	Google Drive	Rackspace
Microsoft Azure Cloud	IBM Cloud	S3 Compatible
Box	IONOS	SharePoint
CloudMe	MediaFire	SugarSync
Dropbox	Microsoft Office 365	Teams SharePoint

FTP	NAS Cloud	Wasabi
Google Cloud	OneDrive	WebDAV
OpenStack	ZipShare	
OVH		

On-demand Downloading（オンデマンドダウンロード）を使用すると、クラウドサービスに保存された Zip ファイルをより速く扱えます。この機能が有効な場合（DISABLEVIRTUALZIP プロパティ）、ユーザーは選択した Zip ファイルの仮想版をクラウドサービスからダウンロードします。仮想 Zip ファイルでは Zip ファイルの内容を確認でき、ユーザーが開くことを選んだファイルのみが実際にダウンロードされます。新しいファイルの追加など他の編集を開始した場合は、Zip ファイル全体がダウンロードされます。

ご注意: ダウンロードリンクを生成して送信する「Share」系の機能を利用するには、少なくとも 1 つのクラウドサービスが有効になっている必要があります。有効になっていれば、WinZip は共有対象をアップロードし、アップロード日ごとのフォルダーに格納し、ダウンロードリンクを生成して、指定された方法でリンクを挿入できます。特定の「ルート」フォルダーが必要な場合（企業固有のクラウドサービスでは一般的です）、インストール時に管理者プロパティ WRITABLE_FOLDER_[サービス名] を設定できます。

クラウドストレージサービスに加えて、OneDrive™ などのクラウド共有サービスもファイル共有に利用できます。ユーザーは、リボンインターフェイスの [Settings] タブにある Cloud Services ドロップダウンメニューから、有効になっている任意のサービスにログインできます。既定のクラウドサービス（Default Cloud Service）もここで設定できます。あるいは、WinZip Enterprise のインストール時に DEFAULTCLOUDSERVICE プロパティを使用して、ソフトウェア管理者が既定のクラウドサービスを構成することもできます。あわせて管理者が NOUSERCLOUDDEFAULT プロパティを TRUE に設定すると、ユーザーは既定のクラウドサービスを変更できなくなります。

クラウドサービスを有効にすると、WinZip Enterprise で次のことができます。

- クラウドサービスに保存されているファイルから Zip ファイルを作成する

- Zip ファイルをクラウドサービスに保存する
- ファイルをクラウドサービスに展開する
- クラウドサービスに保存されたファイルへのリンクを生成し、メールメッセージに挿入する
- Zip ファイル内のファイルを、有効になっているソーシャルメディア機能で共有する

クラウド構成に関する注意事項

- **Amazon S3:** ストレージおよび共有は、Signature Version 4 をサポートするサービスと互換性があります。また、S3 ストレージ領域に少なくとも 1 つのバケットが存在する必要があります。Amazon の資格情報は、Amazon S3 の仕様に従って環境変数または config/credential ファイルで構成してください。Amazon GovCloud の FIPS 140-3 エンドポイントを使用する必要がある場合は、WinZip を FIPS 140-3 準拠に構成する必要があります。構成すると選択一覧に表示されます。
- **Google Cloud:** このサービスでは、ユーザーがログインするためのサービスアカウントと、JSON または P12 の構成ファイルの作成が必要です。サービスアカウントのログインには、cloudplatformprojects.readonly と、devstorage.full_control または devstorage.read_only のスコープアクセスが必要です。
- **IBM Cloud:** IBM Cloud で「Share file links」を作成するには、管理者が WRITABLE_FOLDER_IBMCLOUD MSI プロパティに、共有が許可されたフォルダーを設定する必要があります。
- **OpenStack:** 認証値は、OpenStack ドキュメントの「Environment Variables」セクションに記載されているとおり、環境変数でのみ設定できます: <https://docs.openstack.org/python-openstackclient/pike/cli/man/openstack.html>
- **OpenStack (共有リンク) :** OpenStack で「Share file links」を作成するには（対応しているプロバイダーの場合）、管理者が WRITABLE_FOLDER_OPENSTACK MSI プロパティに、共有が許可されたフォルダーを設定する必要があります。OpenStack プロバイダーでは共有が既定で有効ですが、すべてのプロバイダーがこの機能を実装しているわけではありません。OpenStack での共有を無効にするには、MSI の registry テーブルで次のレジストリ値を 1 に設定します。

```
"SOFTWARE\WinZip Computing\WinZip\WZF\WzWxFopenstack\Default"
名前: "DisableShare" 値: 1
```

- **S3 Compatible:** このサービスは V4 署名をサポートするサービスに限られます。すべてのサービスが 100% 互換とは限りません。たとえば、多くのサービスはファイル共有用の URL を取得する手段を提供していません。
- **Teams SharePoint:** WinZip MSI にレジストリキー
(HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WinZip
Computing\WinZip\WZF\WzWxFteamsspt\Default\WritableRootFolder) を追加して、ユーザーの既定の共有フォルダーパスを指定します。WinZip MSI には WritableRootFolder の値に対応するプロパティ (WRITABLE_FOLDER_TEAMSSHAREPOINT) も含まれています。管理者は Orca でこの関連プロパティ (WRITABLE_FOLDER_TEAMSSHAREPOINT) を変更して値を設定できます。WRITABLE_FOLDER_TEAMSSHAREPOINT の既定値は "\" です。

ソーシャルメディア (Social Media)

ソーシャルメディア機能は既定で有効です。企業では、多くのユーザーまたはほとんどのユーザーに対してソーシャルメディアの利用を一部または全部制限し、特定の部門にのみ利用を許可する場合があります。複数の MST ファイルを作成し、Active Directory の適切な組織単位 (OU) に割り当てることで、WinZip でもこれらの機能を適切なグループにのみ提供できます。

前のセクションで述べたとおり、Share 機能を使用する場合は、WinZip 内で少なくとも 1 つのクラウドサービスが利用可能である必要があります。ソーシャルメディアの利用は Share 機能の一例です。

WinZip では、リボンの [File] メニューの **Social Media** 項目から、有効になっているソーシャルメディア機能にログイン・ログアウトできます。WinZip で Zip ファイルを開いた後、リボンで **File > Share > Post to Social Media** をクリックし、必要に応じて投稿するメッセージを変更して、有効になっているソーシャルメディア機能を 1 つ以上選択します。**OK** ボタンをクリックすると、ファイルが既定の共有サービスにアップロードされ、メッセージとそのファイルへのリンクが投稿されます。ソーシャルメディア機能は WinZip Express を使用する場合にも利用できます。

WinZip のレジストリ設定: ポリシーとその他の設定

WinZip のアップグレードをインストールする際は、設定しようとするポリシーの一部が、HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\WinZip Computing\WinZip\[サブキー] に保存されている旧バージョンの個別ユーザー設定によって無効化される場合があることに留意してください。

この問題を回避するには、すべての HKEY_USERS キーから WinZip サブキーと文字列値を削除します。ユーザーが WinZip を実行すると再作成され、設定した値が反映されます。

WinZip の MSI ファイルをカスタマイズした場合（直接編集、変換ファイル（transform）の使用、コマンドラインインストールのいずれでも）、インストール時に HKEY_LOCAL_MACHINE にレジストリ文字列値が作成されます。管理者レベルのポリシーは HKEY_LOCAL_MACHINE にのみ書き込まれ、それ以外はユーザーが変更できる既定設定となります。後者は HKEY_CURRENT_USER にも書き込まれます。

注: インストール後にレジストリを編集するのではなく、インストール時に MSI インストールをカスタマイズする（たとえば MST やコマンドラインを使用する）ことがベストプラクティスです。

レジストリ設定を作成しないプロパティ

MSI プロパティの一部は、特定のファイルや機能がインストールされないようにするものです。これらのプロパティは ADD または INSTALL で始まります。これらの項目についてはレジストリエントリは作成されません。これらのコンポーネントは WinZip のインストール処理中に追加・インストールするかどうかを選択できます。

既定のポリシー

既定では、WinZip のポリシーに関する文字列値がレジストリのサブキー

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WinZip Computing\WinZip\Policies に作成されます。HKLM を編集する権限がないユーザーは、これらの設定を変更できません。

文字列値	説明
DisableBackupFolderMenu	既定=0、WinZip の設定の [Explorer] タブに「Backup this folder」メニューのチェックボックスを表示します。1=非表示
DisableCloudServices	既定=ALL、すべてのクラウドサービスを無効化します。その他の選択肢は NONE、ALIBABACLOUD、AMAZONS3、AZUREBLOB、BOX、CLOUDME、DROPBOX、FTP、GOOGLECLOUD、GOOGLEDRIVE、IBMCLOUD、IONOS、MEDIAFIRE、OFFICE365、ONEDRIVE、OPENSTACK、OVH、RACKSPACE、S3COMPATIBLE、SHAREPOINT、SUGARSYNC、TEAMSSHAREPOINT、WASABI、WebDAV、ZIPSHARE です。
DisableConversions	既定=ALL、すべての変換機能を無効化します。その他の選択肢は NONE、IMAGERESIZE、CONVPHOTOS、REMOVEPEPERSDATA、DOCTOPDF、WATERMARK、ENLARGEREDUCEIMAGE（File Management ツールのみ）、COMBINEPDFFILES、SIGNPDFFILES です。
DisableFileExpiration	既定=0、Schedule for Deletion（ファイルの有効期限）オプションを利用できます。off=1
DisableFIPSPolicyWarning	既定=0、FIPSComplianceMode が RELAXED に設定されているときに表示される警告を無効化しません。on=1
DisableNotificationServices	既定=ALL、すべてのソーシャルメディアおよびインスタントメッセージングのオプションが有効です。その他の選択肢は NONE、FACEBOOK、LINKEDIN、SLACK、YOUTUBE、JABBER、OFFICE365GROUPS、TEAMS です。
DisablePersonalContacts	既定=1、WinZip メーラーで個人のメールアドレスを使用できません。off=0
DisableRatings	既定=0、製品の評価やアンケートを表示します。off=1
DisableRecentArchives	既定=1、最近使用したアーカイブを記録しません。off=0、記録します。
DisableRecentJobs	既定=1、最近使用したジョブを記録しません。off=0、記録します。
DisableRecipientServices	既定=ALL、メールアドレスの宛先サービスを一切利用できません。その他の選択肢は NONE、EXCHANGECONTACTS、GOOGLECONTACTS、LDAPCONTACTS、OUTLOOKCONTACTS、OUTLOOKPOCONTACTS、SLACKCONTACTS、YAHOOCONTACTS です。
DisableSettingsFromCloud	既定=1、WinZip の設定をクラウドサービスに保存したり取得したりできません。off=0
DisableShareA	既定=0、SafeShare は無効化されません。on=1、SafeShare は表示されなくなります。

文字列値	説明
DisableShortLinks	既定=1、リンク短縮オプションは無効です。on=0
DisableVirtualZip	既定=1、オンデマンドダウンロード用の Zip 仮想化は無効です。on=0
DisableVirtualZipMetrics	既定=1、Zip 仮想化のメトリクスは無効です（既定）。on=0。メトリクスは Zip ファイルのディレクトリのサイズと位置の情報を保存・取得し、クラウド上の Zip ファイルの読み込み速度を最適化します。
DisableZipAndShare	既定=1、Zip and Share（WinZip Express）のコンテキストメニュー項目は表示されず、[Tools] タブの Zip and Share ボタンも無効になります。0=どちらも利用できます。
EncWipeDelete	既定=0、特定のファイルをワイプできない場合に警告メッセージが表示され、その後、通常どおり削除されます。on=1（警告メッセージを抑止し、この種のファイルは削除のみが行われます）。
EncryptReplacements	既定=0、ロック解除。暗号化ファイルの更新または削除時にパスワードの入力を必須とするかどうかを、ユーザーが設定できます（WinZip Settings > Advanced）。1=管理者が「有効」にロック（パスワードが常に必要。オプションはユーザーに非表示）。2=管理者が「無効」にロック（パスワードは不要。オプションはユーザーに非表示）。
EntX509Certificate	既定=0。詳細については「組織全体でのパスワード管理」を参照してください。
FIPSComplianceMode	既定=DISABLED（WinZip での FIPS モードの使用を無効化）。その他の選択肢は DEFAULT（WinZip がコンピューターの準拠設定に従う）、STRICT（FIPS 承認済みの処理のみを許可）、RELAXED（FIPS 非承認の処理を実行する前に警告を表示）です。
HideRegInfo	既定=1、[About WinZip] ダイアログ内のリンクを非表示にします。off=0（リンクを表示）。
HidePDFMenu	既定=0、WinZip の設定の [Explorer] タブに PDF メニューのチェックボックスを表示します。1=非表示
HideSafeMenu	既定=0、WinZip の設定の [Explorer] タブに SafeShare メニューのチェックボックスを表示します。1=非表示
LockPDFMenu	既定=0、ロック解除。ユーザーは WinZip の設定の [Explorer] タブで PDF メニューのチェックボックスを有効・無効にできます。1=管理者によりロック
LockSafeMenu	既定=0、ロック解除。ユーザーは WinZip の設定の [Explorer] タブで SafeShare メニューのチェックボックスを有効・無効にできます。1=管理者によりロック

文字列値	説明
PDFMenu	既定=1、WinZip の設定の [Explorer] タブの Context menu options セクションに「Show WinZip PDF Express menu」チェックボックスを表示します。0=非表示
SafeMenu	既定=1、WinZip の設定の [Explorer] タブの Context menu options セクションに「Show WinZip SafeShare menu」チェックボックスを表示します。0=非表示
WzBGTddtf	既定=0、Tools の「Create a custom cleaner」機能は非表示です。1=カスタムクリーナー機能が表示されます（機能が利用可能になります）。

パスワードポリシー

WinZip のパスワードポリシーのレジストリ文字列値は、既定のポリシーと同じサブキー HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WinZip Computing\WinZip\Policies に作成されます。これらの文字列値は、既定値が変更された場合にのみ作成されます。ユーザーがパスワードポリシーを変更できないようにするには、passwordrestrict 文字列値を 1 に設定することを検討してください。これにより、WinZip の設定の [Passwords] タブへのアクセスが削除されます。

文字列値	説明
alwaysencrypt	既定=0 (FALSE)。TRUE=1
encryptionrestrict	既定=文字列値なし・制限なし。AES256、AES256B（任意の組み合わせをカンマ区切りで指定し、特定の暗号化方式を除外します）
passwordlength	既定=8。8 から 99 までの任意の数値を使用できます。
passwordreqlower	既定=0 (FALSE)。TRUE=1（小文字を 1 文字以上必須）
passwordreqnumber	既定=0 (FALSE)。TRUE=1（数字を 1 文字以上必須）
passwordreqsymbol	既定=0 (FALSE)。TRUE=1（記号を 1 文字以上必須）
passwordrequpper	既定=0 (FALSE)。TRUE=1（大文字を 1 文字以上必須）
passwordrestrict	既定=0 (FALSE)。TRUE=1（WinZip の設定から [Encryption] タブが削除され、ユーザーはポリシーを変更できなくなります）

その他の設定

その他の設定は、別のサブキーに作成される文字列値によって制御されます。各ユーザーハイクに WinZip の設定がまだ存在しない場合、これらは反映されます。存在する場合は、各ユーザーハイクの WinZip サブキーを削除するか、各ユーザーハイクの対応するサブキーにこれらの設定を明示的に作成する必要があります。次の表は、HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WinZip Computing\WinZip\WinZip に作成される文字列値を示します。

文字列値	説明
AutoOpenDocs	既定=1、Microsoft Office ファイル 1 つのみを含む Zip ファイルは、そのアプリケーションで自動的に開かれます。off=0
DisableAOD	既定=0、ユーザーは WinZip の設定にある Office ファイルの自動オープンのチェックボックスを利用できます。on=1
JobPromptOnRun	既定=1、WinZip のバックアップファイル (.wjf) は実行前に確認を表示します。off=0
NoEditMailAccts	既定=0、ユーザーはメールアカウントを編集できます。on=1
NoInternalEmailer	既定=0、WinZip のメール機能で WinZip メーラーを利用できます。on=1
NoUserCloudDefault	既定=DEFAULT（無効）、ユーザーは既定のクラウドサービスを指定できます。TRUE=ユーザーは既定のクラウドサービスを指定できません。
ShowShared2MeFolders	既定=1（有効）。OneDrive と Google Drive では、ファイルが他のユーザーの共有フォルダー由来であるかどうかをユーザーが確認できます。

Alternate Association（代替の関連付け）

サブキー HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WinZip Computing\WinZip\AltAssoc に AltAssoc1 という名前の文字列値を作成できます。この文字列の値により、必要に応じて Zip ファイルに使用する代替の拡張子を設定します。

代替の拡張子を作成する場合は、その拡張子を使用する必要があることを WinZip に知らせる必要もあります。そのためには、サブキー HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WinZip Computing\WinZip\AltAssoc に UseAltExten という名前の文字列値を作成し、値を 1 に設定します。

Check for Updates（更新の確認）

必要に応じて、WinZip の Check for Updates 機能を完全に無効化できます。そのためには、サブキー — HKEY_CURRENT_USER\Software\WinZip Computing\WinZip\UpdateCheck の NoUpdateChecking 文字列の値を 1 にする必要があります。他の値について前述したとおり、HKEY_LOCAL_MACHINE ハイブから値が反映されるようにする手順を実施している場合は、サブキー HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\WinZip Computing\WinZip\UpdateCheck の同じ文字列に対してこの変更を行うことができ、またそうすべきです。

WinZip Command Line Support Add-On 6.0

WinZip Command Line Support Add-On を使用すると、コマンドラインから WinZip の機能を利用できます。スクリプト、バッチファイル、マクロ、組織全体のパスワード運用など、WinZip のユーザーインターフェイスを介さずに処理したい作業に適しています。

本アドオンは現時点では FIPS 140-3 に対応していませんが、WIP (Windows Information Protection) には対応しています。

Command Line Support Add-On の使用方法の詳細については、ヘルプファイルを参照してください。ヘルプは Windows のアプリ一覧 (WinZip フォルダー > WinZip Command Line Add-On Help) から、またはプログラムフォルダー (Program Files\WinZip フォルダー: WZCLINE.CHM) から直接開けます。ヘルプには最新機能の一覧も含まれています ([Contents] で Overview セクションを開き、「What's New in Version 6.0」をクリックします)。

WinZip Command Line Support Add-On 6.0 のインストール

1. WinZip Enterprise をインストールした後、wzcline60-64.msi をダブルクリックします。
2. インストールウィザードの指示に従います。

WinZip Courier

WinZip Enterprise には、フル機能の WinZip Courier アプリケーションが含まれます。

全般的な考慮事項

メールの添付ファイルは、送信前に .zip ファイルに圧縮できます。既定では添付ファイルは Zip 圧縮されますが、自動圧縮を無効にしたり、確認を求めて圧縮する条件を設定したりできます。さらに、WinZip Courier が .zip ファイルをクラウドサービスにアップロードし、メールにはダウンロードリンクのみを含める構成にすれば、メールのサイズをさらに削減できます。これにより Outlook のデータファイルのサイズを最小限に抑えられます。クラウド上の場所にアップロードしたファイルに有効期限を設定することも可能です。WinZip Courier では、WinZip で利用できるクラウドサービスと同じものを使用できます。ユーザーに提供するサービスは、ソフトウェア管理者が完全に制御できます。メール添付のセキュリティは、暗号化とパスワードポリシーによって維持できます。また、WinZip Courier の変換機能により、Microsoft Office のドキュメントを PDF ファイルに変換したり、該当する画像添付に透かしを追加してさらに保護したりできます。

一部のユーザー層に異なる機能を提供したい場合は、Active Directory で複数の組織単位（OU）を定義できます。さらに複数の .mst ファイルを作成してグループポリシーによるインストールを行えば、各ユーザー層に適切な機能のみを提供できます。

Zip 圧縮オプション

WinZip Courier では次の圧縮オプションを選択できます。

- **Zipx:** より小さいファイルサイズを実現する最新の圧縮方式を適用します。
- **Zip:** 従来の圧縮方式（Zip 2.0）です。
- **Optimize Zipx by saving identical files as references:** ファイルセットを分析して重複ファイルを検出し、圧縮時には 1 つのバージョンのみを含めます。参照（リファレンス）により、圧縮ファイルを展開したときに重複していたバージョンが復元されます。

添付ファイルのオプション

Zip Attachments の既定値と、ユーザーが利用できるオプションは、インストール時に設定した権限（プロパティ）によって決まります。

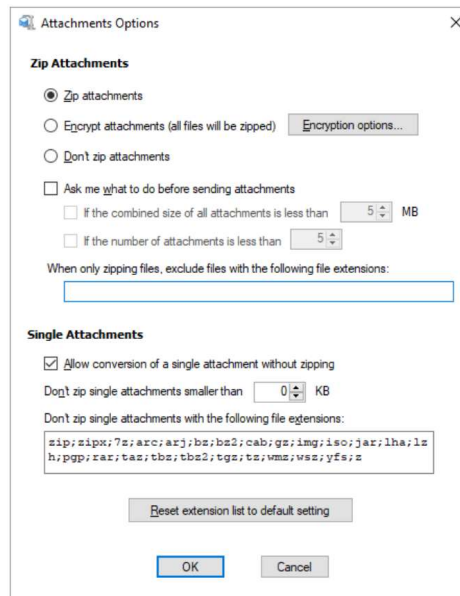


図: 添付ファイルのオプション

Zip Attachments（添付ファイルの Zip 圧縮）

- **Zip attachments:** このオプションを選択すると、添付ファイルが特定の条件に一致しない限り、自動的に Zip 圧縮されます。
- **Encrypt attachments (all files will be zipped):** WinZip のパスワードポリシー「always encrypt」が有効な場合、このオプションは有効になり、他のすべてのオプションはグレー表示になります。Courier の NOENCRYPTION プロパティが 1 に設定されている場合、このオプションと対応する Encryption options ボタンはグレー表示になります。それ以外の場合、このオプションを有効にすると Courier は常に添付ファイルを Zip 圧縮し、添付ファイルを暗号化するためのパスワードの入力を求めます。
 - **Encryption options ボタン:** WinZip に暗号化の制限が構成されていない場合、[Encryption Options] ダイアログで暗号化方式を選択できます。Courier は添付ファイルの

Zip 圧縮と暗号化時に、選択した方式を使用します。なお、WinZip のパスワードポリシーは Courier の暗号化にも影響します。

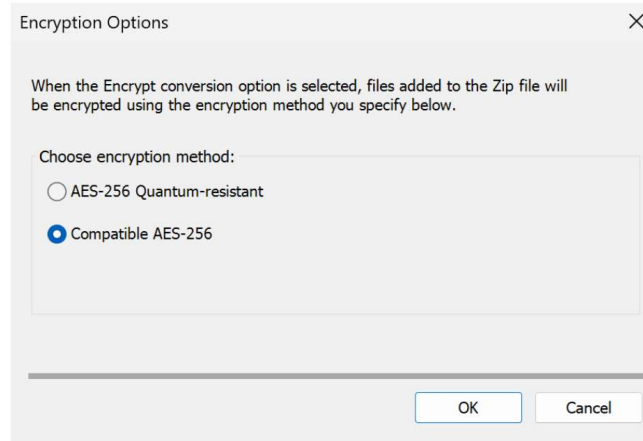


図: 暗号化オプション

- **Don't zip attachments:** このオプションを有効にすると、WinZip は既定では添付ファイルを Zip 圧縮しません。
- **Ask me what to do before sending attachments:** このチェックボックスをオンにし、条件を設定していない場合、Zip 圧縮の前に必ずユーザーに確認が表示されます。サイズまたは件数の条件を設定した場合は、添付ファイルがその条件を満たすときにのみ確認が表示されます。条件には次のものがあります。
 - 添付ファイルの合計サイズが [x] MB 未満である（x はユーザーが設定するサイズ）
 - 添付ファイルの数が [x] 未満である（x はユーザーが設定する件数）
 - **When only zipping files, exclude files with the following file extensions:** このボックスに、Zip 圧縮の対象から除外するファイル形式を入力できます。

Single Attachments（単一の添付ファイル）

- **Allow conversion of a single attachment without zipping:** このチェックボックスをオンにすると、Zip 圧縮を必要とせずに単一の添付ファイルへ変換設定を適用できます。
- **Don't zip single attachments smaller than [x] KB:** 単一の添付ファイルを Zip 圧縮する最小サイズをユーザーが指定できます。

- **Don't zip single attachments with the following file extensions:** このボックスに、Zip 圧縮の対象から除外するファイル形式を入力できます。拡張子の一覧をリセットする場合は、**Reset extension list to the default setting** をクリックします。

注: 暗号化では、適切に復号できる標準形式を提供するために Zip ファイルを使用します。

パスワードポリシー

WinZip Courier は独自のパスワードポリシーを作成・保持しません。暗号化というオプション自体を完全に無効化できるプロパティを 1 つ備えているだけです。それ以外は、WinZip で設定したパスワードポリシーに従います。たとえば WinZip で暗号化方式の 1 つを無効にし Compatible AES-256 のみを残した場合、Courier でも同じになります。既定では、Courier に適用されるパスワードポリシーは「パスワードは 8 文字以上」のみです。WinZip Courier で暗号化を有効にすると、メールの添付ファイルが Zip 圧縮されます。これは他の設定より優先されるため注意してください。WinZip で AlwaysEncrypt が有効な場合、Courier は常にメールの添付ファイルを Zip 圧縮して暗号化します。

注: WinZip を FIPS 140-3 準拠に構成している場合、WinZip Courier も準拠します。同様に、WinZip で組織全体のパスワード機能を構成している場合、その設定は Courier にも適用されます。

クラウドサービス (WinZip Courier)

WinZip Courier では、大きなファイルを送信する際にクラウドサービスとリンクを利用できます。また、すでにクラウドに保存されているファイルへのリンクを簡単に送信する手段も提供します。WinZip Enterprise が提供するすべてのクラウドサービスが Courier でも利用でき、大きなファイルを共有するための多様な選択肢が得られます。

クラウドオプション

Cloud Service セクションを枠で囲んで示した [WinZip Courier Options] ダイアログは、Outlook に表示される Courier ドロップダウンメニューから開けます。ユーザーが **Cloud options** ボタンをクリックすると、以下のような [Configure Cloud Service] ダイアログが開きます。

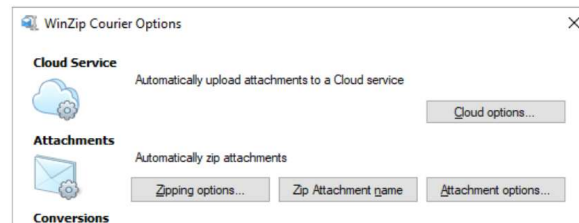


図: WinZip Courier Options ダイアログ

[Configure Cloud Service] ダイアログには、無効化されていないクラウドサービスのみが表示されます。このダイアログはファイル添付の送信に関するものです。

クラウドサービス経由で添付ファイルを自動送信する

ダイアログ上部のセクションでは、既定のしきい値サイズを設定または変更できます。これにより、添付ファイルをクラウドサービス経由で送信するタイミングが決まります。他の 2 つの選択肢は「常に」と「行わない」です。

構成するクラウドサービスの選択

ダイアログ中央のセクションでは、次の操作ができます。

- 一覧からクラウドサービスを選択し、そのサービスにログインする
- ログイン済みのサービスからログアウトする
- サービスを既定に設定する
- 同じ種類のクラウドサービスを追加する（2 つ目の ZipShare アカウントなど）
- アカウントに付けたニックネームを編集する

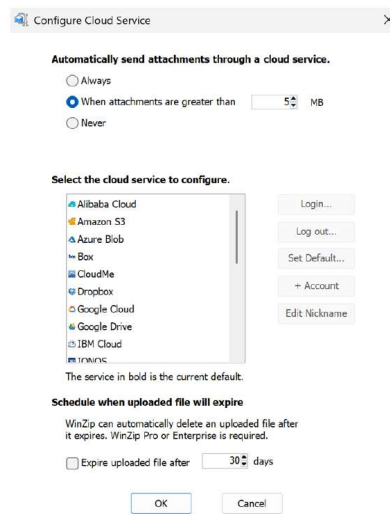


図: Configure Cloud Service ダイアログ

アップロードしたファイルの有効期限のスケジュール

ダイアログ下部のセクションでは、**Expire uploaded file after [x] days** チェックボックスをオンにして、ファイルが期限切れになるまでの日数を設定できます。

注: WinZip の DisableFileExpiration プロパティが有効（1 に設定）になっている場合、Courier のユーザーはファイルの有効期限をスケジュールできません。

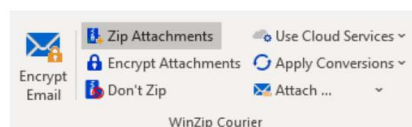


図: WinZip Courier のリボン

Email from Cloud（クラウドからのメール送信）

さらに Courier では、以前にクラウドサービスへアップロードしたファイルを検索して選択できます。前述のとおり、上記の構成ダイアログは、メールメッセージに添付されるファイルの扱い方を決めるものです。**Email from Cloud** ボタンは、メールメッセージの [Message] タブの WinZip Courier セクションにあります。このボタンをクリックすると、既定のクラウドサービスが自動選択された状態で [Select Files to Share] ダイアログが表示されます。このダイアログの左ペインには、有効になっている他のサービスも表示され、利用できます。

コンピューターに接続されたドライブからファイルを選択する場合とは異なり、クラウドサービスからファイルを選択すると、Courier は「Please click the link below to access files from my [クラウドサービス名]」という定型のテキストボックスと、そのファイルへのリンクを挿入します。この方法で共有する場合、ユーザーは利用可能な任意のファイルを選択でき（Zip ファイルである必要はありません）、Courier がそのファイルへのリンクを挿入し、受信者はそれをダウンロードできます。

変換機能（WinZip Courier）

WinZip Courier のその他の機能は Conversions（変換）の見出しの下にまとめられています。これらの機能の一部は管理者が有効にする必要があります。変換オプションは、オプションダイアログの該当するボックスをオンにすることで Courier の既定として設定できます。各機能は、その options ボタンをクリックして個別に構成することもできます。



図: Conversions（変換）のオプション

Reduce images options（画像の縮小オプション）

読み取り専用 PDF には、PDF Resolution と JPG Quality のオプションがあります。文書を読み取り専用 PDF に変換すると、変換後のファイルサイズは大幅に大きくなる可能性があります。一方で内容のコピーは難しくなり、セキュリティ上の懸念が軽減されます。

この変換オプションは、次のサポート対象の写真・画像ファイルで使用できます。BMP、DIB、EXIF、GIF、JPG、PNG、TIF。画像の寸法を小さくすると、ファイルサイズと解像度に影響します。共有目的では通常問題ありませんが、印刷に回す場合など画質が重要な場合には適しません。

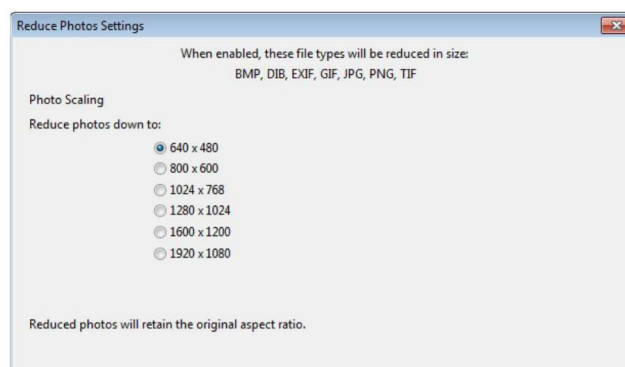


図: Reduce Photos Settings ダイアログ

Convert photo options（画像形式の変換オプション）

この変換オプションは、写真などの画像ファイルを別のファイル形式に変換するために使用します。場合によっては、別の形式に変換することでファイルサイズが小さくなります。また、共有のために画像を共通のファイル形式に変換する用途にも有用です。サポート対象のファイル形式はBMP、GIF、JPG、JP2、PNG、PSD、TIF、WEBP、SVGです。

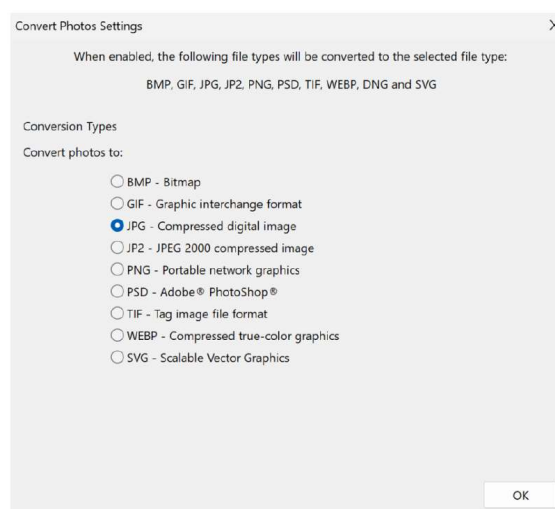


図: Convert Photos Settings ダイアログ

Remove info options（情報の削除オプション）

この変換オプション（Remove personal data と呼ばれます）は、ファイルから EXIF メタデータを削除するために使用します。サポート対象のファイル形式はDOC、DOCX、GIF、JPG、PDF、PNG、PSD、PPT、PPTX、XLS、XLSXです。ファイル形式によって含まれるメタデータの種類の異

なります。このオプションを有効にすると、次の項目を除くすべてのメタデータがファイルから削除されます。

- Copyright
- Rights
- Producer

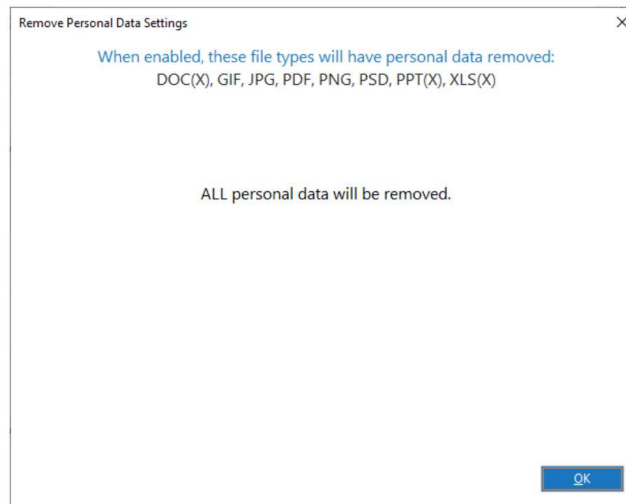


図: Remove Personal Data Settings ダイアログ

Convert to PDF options (PDF への変換オプション)

この変換オプションは、Microsoft Word、Microsoft Excel、Microsoft PowerPoint のファイル、および一般的な画像・メタデータファイル形式で使用できます。具体的には DOC、DOCX、XLS、XLSX、PPT、PPTX、CCITT、GIF、JPG、PNG、TIFF、BMP、EMF、EXIF、ICON、WMF です。

Convert to PDF by default ボックスをオンにすると、[PDF Conversion Settings] ダイアログが表示されます。設定を編集したい場合は、ボタンをクリックして開くこともできます。

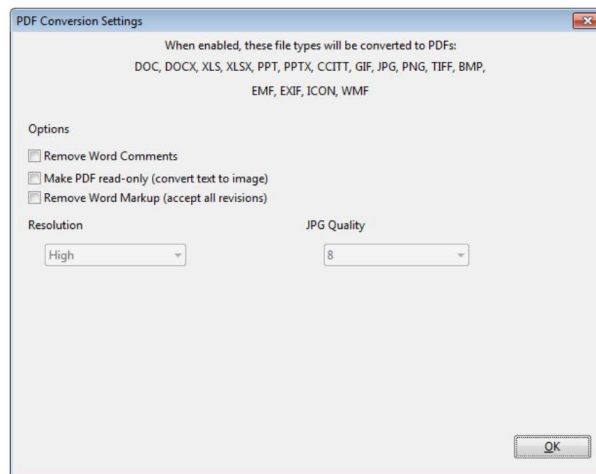


図: PDF Conversion Settings ダイアログ

既定設定では、編集可能でテキストをコピーできる PDF ファイルが作成されます。オプションとして Removing Word Comments、Make PDF read-only、Remove Word Markup があります。

Watermark options (透かしのオプション)

この変換オプションは、画像や PDF に文章・文字列（例: Confidential, do not copy）を重ねて保護します。サポート対象のファイル形式は BMP、GIF、JPG、PDF、PNG、TIF です。

このオプションを初めて選択すると [Watermark Settings] ダイアログが開き、ユーザーインターフェイスで編集できます。次のオプションがあります。

- **Use an image in the watermark** — 透かしに画像を使用します。
- **Use text in the watermark** — 透かしにテキストを使用します。上記 2 つのオプションは同時に選択できます。
- **Open** — 透かしとして使用する画像を参照して選択します。
- **Text** — 既定のテキストをそのまま使用するか、必要に応じて変更します。
- **Font** — 使用するフォントの種類とサイズを選択します。

注: 透かしを適用した非常に大きな画像を縮小表示（shrink-to-fit）で表示すると、透かしが予想より小さく見える場合があります。

- **Include a date stamp** — 日付スタンプを含めます。
- **Include a time stamp** — 時刻スタンプを含めます。
- **Direction** — テキストを表示する向きを選択します。
- **Transparency** — テキストの透明度を設定します。
- **Placement** — 透かしを表示する位置を選択します。位置は図で示されます。
- **Overlay Order** — 重ね順を指定します。
 - Text over image (テキストを画像の上に重ねる)
 - Image over text (画像をテキストの上に重ねる)

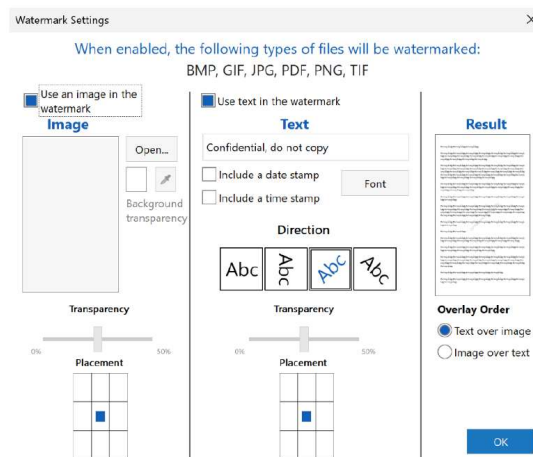


図: Watermark Settings ダイアログ

Sign PDF options (PDF 署名のオプション)

PDF への署名は、デジタル文書を承認または認証する手段です。証明書の場所のオプション、証明書のソース、パスワードのオプションを設定できます。また、署名理由や署名場所など、任意の署名情報を設定することもできます。

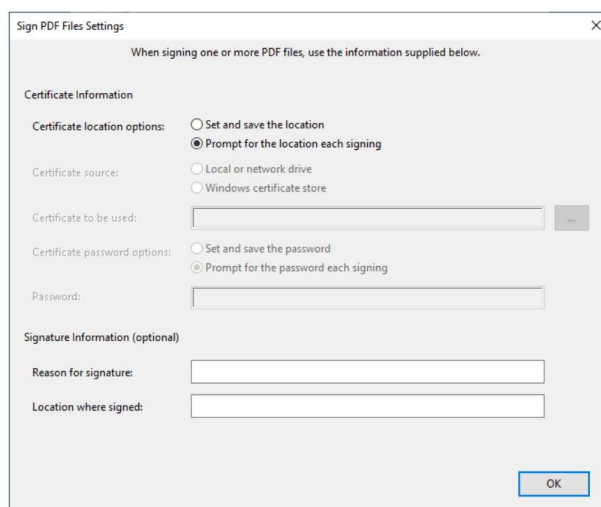


図: Sign PDF Files Settings ダイアログ

FIPS 140-3 準拠 – 構成上の考慮事項

注: FIPS 140-3 は Windows 10 ではサポートされません。

組織で FIPS 準拠を設定する際には、いくつかの考慮事項があります。以下の一覧に加えて、次の情報源も参照してください。

- FIPS 140-3 準拠については、Microsoft Learn の次の記事を参照してください:
<https://learn.microsoft.com/en-us/compliance/regulatory/offering-fips-140-2>
- 利用シナリオの例については「シナリオ 3 – FIPS 140-3 準拠の準備」を参照してください。

FIPS に関するヒントと考慮事項

- マシンまたは Windows OS の FIPS ポリシーはローカルセキュリティポリシーです。対応するレジストリ設定は
`HKLM\System\CurrentControlSet\Control\Lsa\FIPSAAlgorithmPolicy\Enabled=1` です。
- WinZip の FIPS モードは、WinZip のインストール時に設定するか、FIPSComplianceMode レジストリ文字列を DEFAULT、STRICT、RELAXED のいずれかの値に編集することで設定できます。FIPSComplianceMode プロパティとその値の詳細については「WinZip の機能の選択」を参照してください。
- WinZip の FIPS モードは、Windows OS の FIPS ポリシーと連動して機能します。つまり、FIPS 準拠の環境を確実にするには、マシンのポリシーと WinZip のポリシーの両方を有効にする必要があります。
- お客様の中には、非準拠に関する警告を出さずに、Windows OS のポリシーとは独立した FIPS モードで WinZip を運用したいという要望をお持ちの方もいます。WinZip では、警告を無効化する追加の展開ポリシーによってこのような設定に対応できます。たとえば WinZip の FIPSComplianceMode を RELAXED に設定すると、WinZip は Windows の FIPS 140-3 検証済み暗号モジュールを使用し、Zip の暗号化には FIPS 140-3 承認済みの AES-256 Quantum-resistant 方式のみが許可されます。一方、Windows OS で FIPS が有効な場合に通常はブロック

される他の操作は、引き続き許可されます。たとえば、AES-256 Quantum-resistant 以外の方式や強度（あるいはその両方）を使用する復号操作です。マシンレベルでは FIPS ポリシーが無効で WinZip 側で有効な場合、確実に言えるのは、WinZip が準拠モジュールと承認済み方式を暗号化に使用するという点のみです。メール送信やアップロードなどの経路における準拠は保証できません。本来、完全な準拠はアプリケーション単位ではなく環境全体で実現されるべきものです。ただし現実には、FIPS 140-3 に対応していないアプリケーションが存在し、FIPS モードが有効なマシンで動作させると不具合が生じる場合があります。完全かつ包括的な FIPS 140-3 準拠を確実にするには、準拠が要求される政府機関との通信には、FIPS モードを有効にした専用マシンを使用することが理想的です。

利用シナリオ例

本セクションでは、適切なセットアップ手順を示すために複数のシナリオを紹介します。各シナリオには、概要、インストールの準備、インストール手順、および該当する場合は補足情報が含まれます。タイトルは主要な内容を示していますが、それ以外の機能も含まれています。これらのシナリオはあくまで指針であり、唯一の方法や必須の方法ではありません。多くの場合、目的に応じて他のシナリオと組み合わせることができます。

まず、必要なインストールファイルパッケージと WinZip 登録ファイル (WinZip.wzmul) をダウンロードします。インストールファイルの EXE パッケージには、Enterprise 版のすべてのインストールファイルが含まれています。この EXE ファイルを実行すると、ファイルをフォルダーに展開できます。WZMUL 登録ファイルは、購入時に提供されるリンクからダウンロードする必要があります。後日これらのファイルが再び必要になったが紛失してしまった場合は、サポートサイトでサポートチケットを作成してご依頼ください: <https://www.winzip.com/en/support/>

シナリオ 1 – SharePoint 環境

概要

SharePoint のみをクラウドサービスとして提供するドメインで WinZip Enterprise をインストールして使用します。このシナリオには次の内容も含まれます。

1. WinZip のデスクトップショートカット
2. PDF 変換と透かし変換
3. SharePoint Web インターフェイス用の Zip and Share (WinZip Express)
4. 他のクラウドサービスはインストールしない
5. Compatible AES-256 暗号化のみを利用可能にする
6. SharePoint の最大アップロードサイズを 30 MB にする
7. パスワード長を 12 文字にする

8. パスワードに小文字・数字・記号・大文字をそれぞれ 1 文字以上要求する
9. グループポリシーによるインストール
10. 登録ファイルの自動コピー (USER_WZMUL_LOCATION プロパティ)
11. WinZip Courier

インストールの準備

必要なファイル: WinZip Enterprise、WinZip Courier、WinZip Express for SharePoint Server のインストールファイル、および WinZip.wzmul ファイル。

プロパティ	値
ADDDesktopIcon	1
DISABLECLOUDSERVICES	ALIBABACLOUD, AMAZONS3, AZUREBLOB, BOX, CLOUDME, DROPBOX, FTP, GOOGLECLOUD, GOOGLEDRIIVE, IBMCLLOUD, IONOS, MEDIAFIRE, OFFICE365, ONEDRIVE, OPENSTACK, OVH, RACKSPACE, S3COMPATIBLE, SUGARSYNC, TEAMSSHAREPOINT, WASABI, WebDAV, ZIPSHARE
DISABLECONVERSIONS	IMAGERESIZE, ENLARGEDUCEIMAGE
DISABLEZIPANDSHARE	0
ENCRYPTDISABLEMETHODS	AES256B
INSTALL[*クラウドサービス名]	0 (クラウドサービスごとに個別のプロパティがあります。名称は ALIBABACLOUD, AMAZONS3, AZUREBLOB, BOX, CLOUDME, DROPBOX, FTP, GOOGLECLOUD, GOOGLEDRIIVE, IBMCLLOUD, IONOS, MEDIAFIRE, OFFICE365, ONEDRIVE, OPENSTACK, OVH, RACKSPACE, S3COMPATIBLE, SUGARSYNC, TEAMSSHAREPOINT, WASABI, WebDAV, ZIPSHARE です。例: INSTALLZIPSHARE)

Orca などの MSI ファイル編集ソフトウェアを使用して WinZip 用の変換ファイル (.mst) を 1 つ以上作成し、Property テーブルの次の項目をこれらの値に設定します。

プロパティ	値
MAXUPSZ_SHAREPOINT	30
PASSWORDLENGTH	12
PASSWORDREQLOWER	TRUE
PASSWORDREQNUMBER	TRUE
PASSWORDREQSYMBOL	TRUE

プロパティ	値
PASSWORDREQUPPER	TRUE

Property テーブルに行を追加します。プロパティ名 = USER_WZMUL_LOCATION、値 = WinZip.wzmul を保存した共有ネットワークフォルダーのパス (\\server\share\subfolder の形式で入力)。

インストール

1. WinZip Express for SharePoint Server の導入を計画し、インストールします。Zip and Share のメニュー項目を追加するため、SharePoint サービスは一時的に停止した後、再起動します。
2. 対象の組織単位 (OU) に対して、WinZip ソフトウェアインストール用のコンピューター構成グループポリシーを作成します。ポリシーの [Modifications] タブに変換ファイル (.mst) を追加します。
3. WinZip Courier をインストールするには、WinZip Enterprise の msi ファイルで INSTALLCOURIER MSI プロパティを 1 に設定します。インストール後、WinZip がライセンス認証されると WinZip Courier も自動的にライセンス認証されます。

各対象コンピューターに WinZip と WinZip Courier がインストールされ、ライセンス済みアプリケーションとして起動し、ユーザー名とパスワードを入力すると SharePoint が利用できるようになります。

シナリオ 2 – Amazon S3 環境

概要

Amazon S3 と Office 365 (OneDrive for Business) のみをクラウドサービスとして提供するドメインで WinZip Enterprise をインストールして使用します。このシナリオには次の内容も含まれます。

1. WinZip のプログラムメニューグループ
2. Facebook での共有 (企業ページでの利用を想定)

3. Zip 圧縮時の写真の縮小、およびファイル管理時の写真のリサイズ
4. Amazon S3 の最大アップロードサイズを 70 MB にする
5. WinZip Express の各機能（Zip and Share、Snap and Share、Scan and Share）
6. コマンドラインによるインストール
7. 登録ファイルの自動コピー（USER_WZMUL_LOCATION プロパティ）
8. 添付ファイルを常に Zip 圧縮する設定の WinZip Courier

インストールの準備

必要なファイル: WinZip Enterprise と WinZip Courier のインストールファイル、および WinZip.wzmul ファイル。

プロパティ	値
ADDMENUGROUP	1
ALWAYSZIPATTACHMENTS	1
DISABLECLOUDSERVICES	ALIBABACLOUD, AZUREBLOB, BOX, CLOUDME, DROPBOX, FTP, GOOGLECLOUD, GOOGLEDRIVE, IBMCLLOUD, IONOS, MEDIAFIRE, OFFICE365, ONEDRIVE, OPENSTACK, OVH, RACKSPACE, S3COMPATIBLE, SHAREPOINT, SUGARSYNC, TEAMSSHAREPOINT, WASABI, WebDAV, ZIPSHARE
DISABLECONVERSIONS	CONVPHOTOS, DOCTOPDF, REMOVEPEPERSDATA, WATERMARK

Orca などの MSI ファイル編集ソフトウェアを使用して WinZip 用の変換ファイル（.mst）を 1 つ以上作成し、Property テーブルの次の項目をこれらの値に設定します。

プロパティ	値
DISABLENOTIFICATIONSERVICES	LINKEDIN
DISABLEZIPANDSHARE	0
ENABLEEXPRESSFEATURES	1
MAXUPSZ_AMAZON	70

Property テーブルに行を追加します。プロパティ名 = USER_WZMUL_LOCATION、値 = WinZip.wzmul を保存した共有ネットワークフォルダーのパス（\\server\share\subfolder の形式で入

力)。

インストール

1. 次のような WinZip のインストール用コマンドラインスクリプトを作成して実行します。

```
msiexec /i file.msi /qn TRANSFORMS=file.mst
```

2. WinZip Courier をインストールするには、WinZip Enterprise の msi ファイルで INSTALLCOURIER MSI プロパティを 1 に設定します。インストール後、WinZip がライセンス認証されると WinZip Courier も自動的にライセンス認証されます。

各対象コンピューターに WinZip Express 機能付きの WinZip と WinZip Courier がインストールされ、ライセンス済みアプリケーションとして起動します。アクセスキーとシークレットアクセスキーを入力すると Amazon S3 クラウドが利用でき、OneDrive for Business も利用できます。企業の Facebook ページに初めて共有する際には、ログインが必要です。

シナリオ 3 – FIPS 140-3 準拠の準備

概要

FIPS 140-3 準拠の Windows ソリューションの一部として WinZip Enterprise をインストールして使用します。暗号化を選択した場合、作成される各 Zip ファイルのデータは AES 256 ビットで暗号化され、データの暗号化にはすべて認証済みの Windows コンポーネントが使用されます。このシナリオではクラウドサービスとソーシャルメディアは使用しません。PDF への変換とファイルへの透かしの付与も、Zip 圧縮するファイルの保護に役立ちます。このシナリオには次の内容も含まれます。

1. [スタート] メニューのショートカット
2. 個人ファイルのバックアップを Zip 圧縮・暗号化する、事前構成済みのジョブファイル
3. やや長いパスワード長の要件 (20 文字)
4. 小文字・数字・記号・大文字をそれぞれ 1 文字以上要求するパスワードポリシー
5. コマンドラインの一部としてプロパティを変更するコマンドラインインストール

6. 登録ファイルの自動コピー（USER_WZMUL_LOCATION プロパティ）

インストールの準備

各コンピューターのローカルセキュリティポリシーで、FIPS 140-3 のポリシー設定を有効にする必要があります。この設定は次のレジストリキーと値に対応します。

```
HKLM\System\CurrentControlSet\Control\Lsa\FIPSAAlgorithmPolicy\Enabled=1
```

必要なファイル: WinZip Enterprise のインストールファイルと WinZip.wzmul ファイル。

インストール

1. 次のような WinZip のインストール用コマンドラインスクリプトを作成します。

```
msiexec /i file1.msi /qn ADDSTARTMENU=1 FIPSComplianceMode=DEFAULT  
DISABLECONVERSIONS=IMAGERESIZE, ENLARGEREDUCEIMAGE INSTALLJOBFILES=1  
PASSWORDLENGTH=20 PASSWORDREQLOWER=TRUE PASSWORDREQNUMBER=TRUE  
PASSWORDREQSYMBOL=TRUE PASSWORDREQUPPER=TRUE  
USER_WZMUL_LOCATION=\\server\share\subfolder
```

各対象コンピューターに WinZip がインストールされ、ライセンス済みアプリケーションとして起動します。Zip ファイルの作成時には常に AES-256 Quantum-resistant 暗号化が使用されます（他の暗号化は利用できません）。AES-256 Quantum-resistant より弱い暗号化を使用している Zip ファイルの内容の表示や展開は、プログラマ的に停止されます。

シナリオ 4 – 複数クラウドアクセス環境

概要

複数のクラウドサービスを提供し、SharePoint を既定とするドメインで WinZip Enterprise をインストールして使用します。このシナリオには次の内容も含まれます。

1. WinZip のデスクトップショートカット
2. すべての変換機能を利用可能にする
3. Zip and Share（WinZip Express）
4. ファイルの最近使用した一覧を有効にする

5. Compatible AES-256 暗号化を無効にする
6. クラウドサービスとして SharePoint、Amazon S3、Office 365（OneDrive for Business）、Google Drive、OneDrive を許可する
7. 各クラウドサービスの最大アップロードサイズを 50 MB にする
8. WinZip Express の各機能（Zip and Share、Snap and Share、Scan and Share）
9. グループポリシーによるインストール
10. 登録ファイルの自動コピー（USER_WZMUL_LOCATION プロパティ）
11. WinZip Courier

インストールの準備

必要なファイル: WinZip Enterprise、WinZip Courier、WinZip Express for SharePoint Server のインストールファイル、および WinZip.wzmul ファイル。

Orca などの MSI ファイル編集ソフトウェアを使用して WinZip 用の変換ファイル（.mst）を 1 つ以上作成し、Property テーブルの次の項目をこれらの値に設定します。

プロパティ	値
ADDDSKTOPICON	1
DISABLECLOUDSERVICES	ALIBABACLOUD, AZUREBLOB, BOX, CLOUDME, DROPBOX, FTP, GOOGLECLOUD, IBMCLLOUD, IONOS, MEDIAFIRE, OPENSTACK, OVH, RACKSPACE, S3COMPATIBLE, SUGARSYNC, WASABI, WEBDAV, ZIPSHARE
DISABLECONVERSIONS	NONE
DISABLERECENTARCHIVES	0
DISABLEZIPANDSHARE	0
ENABLEEXPRESSFEATURES	1
ENCRYPTDISABLEMETHODS	AES256
MAXUPSZ_AMAZON	50
MAXUPSZ_GDRIVE	50
MAXUPSZ_SHAREPOINT	50
MAXUPSZ_ONEDRIVE	50

Property テーブルに行を追加します。プロパティ名 = USER_WZMUL_LOCATION、値 = WinZip.wzmul を保存した共有ネットワークフォルダーのパス (\\server\share\subfolder の形式で入力)。

インストール

1. WinZip Express for SharePoint Server の導入を計画し、インストールします。Zip and Share のメニュー項目を追加するため、SharePoint サービスは一時的に停止した後、再起動します。
2. 対象の組織単位 (OU) に対して、WinZip ソフトウェアインストール用のコンピューター構成グループポリシーを作成します。ポリシーの [Modifications] タブに変換ファイル (.mst) を追加します。
3. WinZip Courier をインストールするには、WinZip Enterprise の msi ファイルで INSTALLCOURIER MSI プロパティを 1 に設定します。インストール後、WinZip がライセンス認証されると WinZip Courier も自動的にライセンス認証されます。

各対象コンピューターに WinZip Express 機能付きの WinZip と WinZip Courier がインストールされ、ライセンス済みアプリケーションとして起動します。適切なユーザー名とパスワードを入力すると、SharePoint、Amazon S3、Google Drive、OneDrive が利用できるようになります。

シナリオ 5 – 「フル機能」構成（一部ユーザーはソーシャルメディアを除外）

概要

グループポリシーで WinZip Enterprise をインストールし、「Marketing OU」には最大限の機能セットを提供しますが、Marketing OU 以外のユーザーからはソーシャルメディアのオプションを削除します。既定のクラウドサービスや共有サービスは定義しません。利用可能な場合、ユーザーが自分で設定できます。パスワードポリシーは WinZip の既定（長さ 8 文字）とし、WinZip の設定の Password Policy タブも利用可能にします。

インストールの準備

必要なファイル: WinZip Enterprise、WinZip Courier、WinZip Express for SharePoint Server のインストールファイル、および WinZip.wzmul ファイル。

Orca などの MSI ファイル編集ソフトウェアを使用して、Marketing OU 用の WinZip 変換ファイルを作成し、Property テーブルの次の項目をこれらの値に設定します。

プロパティ	値
ADDDESKTOPICON	1
ADDMENUGROUP	1
ADDSTARTMENU	1
DISABLECLOUDSERVICES	NONE
DISABLECONVERSIONS	NONE
DISABLENOTIFICATIONSERVICES	NONE
DISABLEZIPANDSHARE	0
ENABLEEXPRESSFEATURES	1
INSTALLEXPRESSOFFICE	1
INSTALLJOBFILES	1
INSTALLPREVIEWER	1
NOINTERNALEMAILER	0
PASSWORDRESTRICT	DEFAULT
USAGECOLLECTLOCK	0

Property テーブルに行を追加します。プロパティ名 = USER_WZMUL_LOCATION、値 = WinZip.wzmul を保存した共有ネットワークフォルダーのパス (\\server\share\subfolder の形式で入力)。

次に、Marketing OU に属していないすべての対象コンピューター用に、2 つ目の WinZip 変換ファイルを作成します。上記の構成との違いを示すため、DISABLENOTIFICATIONSERVICES の値を次のとおり ALL に設定します。

プロパティ	値
ADDDESKTOPICON	1

プロパティ	値
ADDMENUGROUP	1
ADDSTARTMENU	1
DISABLECLOUDSERVICES	NONE
DISABLECONVERSIONS	NONE
DISABLENOTIFICATIONSERVICES	ALL
DISABLEZIPANDSHARE	0
ENABLEEXPRESSFEATURES	1
INSTALLEXPRESSOFFICE	1
INSTALLJOBFILES	1
INSTALLPREVIEWER	1
NOINTERNALEMAILER	0
PASSWORDRESTRICT	DEFAULT
USAGECOLLECTLOCK	0

Property テーブルに行を追加します。プロパティ名 = USER_WZMUL_LOCATION、値 = WinZip.wzmul を保存した共有ネットワークフォルダーのパス (\\server\share\subfolder の形式で入力)。

インストール

1. WinZip Express for SharePoint Server の導入を計画し、インストールします。Zip and Share のメニュー項目を追加するため、SharePoint サービスは一時的に停止した後、再起動します。
2. Marketing 組織単位 (OU) に対して、WinZip ソフトウェアインストール用のコンピューター構成グループポリシーを作成します。ポリシーの [Modifications] タブに 1 つ目の変換ファイル (.mst) を追加します。
3. もう一方の対象組織単位 (OU) に対して、2 つ目の WinZip ソフトウェアインストール用コンピューター構成グループポリシーを作成します。ポリシーの [Modifications] タブに 2 つ目の変換ファイルを追加します。
4. WinZip Courier をインストールするには、WinZip Enterprise の msi ファイルで INSTALLCOURIER MSI プロパティを 1 に設定します。

各対象コンピューターに WinZip Express 機能、WinZip Express for Office、WinZip Courier がインストールされ、ライセンス済みアプリケーションとして起動します。Marketing OU のユーザーは WinZip と Courier のすべての機能を利用でき、パスワードポリシーやその他の機能を自由に構成できます。もう一方の対象 OU のユーザーは、ソーシャルメディアの利用を除いて同じ機能を利用できます。

会社情報・法的事項



WinZip Computing P.O. Box 540 Mansfield, CT 06268 USA	Corel Corporation 333 Preston St. Suite 930 Ottawa, ON Canada, K1S 5N4
--	--

© 2026 Corel Corporation. Corel、WinZip、WinZip ロゴ、WinZip Vise & Envelope ロゴ、Courier、ZipShare は、カナダ、米国およびその他の国における Corel Corporation の商標または登録商標です。本製品、パッケージ、および参考資料には、Corel と関係のない第三者が所有・登録・ライセンスする知的財産（商標を含む）が、許諾を得て使用されています。これらが含まれることは、当該第三者による、または当該第三者に対するいかなる推奨も構成または示唆するものではなく、また第三者の製品やサービスの品質、商品性、適合性に関する Corel のいかなる保証も意味しません。本製品の使用は、本ソフトウェアに含まれるライセンス契約への同意を条件とします。

以下は原文（英語）の免責条項です。法的効力を持つのは原文の英語版であり、本訳文は参考として日本語の要旨を添えたものです。

COREL が本書で提供する情報は、予告なく変更される場合があります、「現状有姿」で提供されます。書面または口頭、明示または黙示のいかなる保証も条件も伴いません。これには、商品性の保証、特定目的への適合性の保証、特許の有効性に関する保証、権原の保証、非侵害の保証（第三者の知的財産権、人格権、データおよびプライバシー権の非侵害を含みますが、これに限られません）、材料の見本や試料への適合性の保証、また事実・法律・制定法・商慣習・取引経過その他によって生じる保証、およびいずれかの法域の法令におけるこれらと同等のものが含まれますが、これらに限られません。提供された情報の結果およびその使用に関する一切のリスクは、お客様が負うものとし、COREL CORPORATION、その関連会社および子会社は、間接的・付随的・特別または結果的な損失または損害（収益または利益の喪失、データの喪失または破損、その他の商業的・経済的損失を含みますが、これらに限られません）について、お客様またはその他のいかなる個人・法

人に対しても、たとえ COREL がそのような損害の可能性について知らされていた場合や予見可能であった場合でも、一切の責任を負いません。また COREL は、第三者による請求についても責任を負いません。お客様に対する COREL の責任の累計総額は、お客様が本資料の購入のために支払った費用を超えないものとします。一部の州・国では、結果的損害または付随的損害についての責任の排除または制限が認められていないため、上記の制限がお客様に適用されない場合があります。本資料を購入することにより、お客様は本免責条項を読み、十分に理解し、同意したことを認めるものとします。

詳細については <https://www.winzip.com/en/company/legal/> および <https://www.corel.com/en/legal-information/> をご覧ください。